

岡山大学構内遺跡調査研究年報10

1992年度

1993年11月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



縄文時代の貯蔵穴群（津島岡大9次調査）



縄文土器出土状況（津島岡大9次調査）

岡山大学構内遺跡調査研究年報10

1992年度

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

1992年度の主な発掘調査は、津島地区工学部生体機能応用工学科棟建設予定地で実施しました。当地は1988年度調査の情報工学科棟および生物応用工学科棟建設地の東方にあたり、互いに関係した遺構も含まれていました。なかでも注目されるのは、古代の条甲制水田の上地区両に関係した東西方向に延びる大溝でした。いま一つ重要なのはそれにはほぼ平行した溝で、規模はやや小さいがやはり水田に関係したものであることが判明しています。後者の年代は古墳時代（6世紀後半～7世紀前半）にさかのぼるということであり、これが整然とした方格地割り水田の起源にもかかわるとすれば、農業土木技術史上において重要な意義を有する遺構になると考えられます。大学周辺の発掘調査地でも類似の遺構が発見されており、県・市教育委員会など関係調査機関とも連携をはかり、より大きな視野で検討を行うことが課題になりそうです。

室内での整理作業も順調に進み、1987・88年度に実施した鹿田地区付属病院管理棟建設地での発掘調査の成果を構内遺跡発掘調査報告書第6冊として刊行することができました。また出土した木器の外部委託による保存処理は本年度で完了し、センターに設置した木器処理施設も稼働を始めました。

発掘調査や整理工事等の事業推進にあたっては、いつものことながら本学事務局・関係部局および岡山県教育委員会・岡山市教育委員会等の協力と援助を得ました。関係機関・各位に厚くお礼申し上げる次第です。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

稻 田 孝 司

例　　言

- 1 本年報は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において1992年4月1日から1993年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および活動成果をまとめたものである。
- 2 人学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、設定基準を次のように定めた。
 - 1) 津島地区では、岡上座標第5座標系(X=-144,500, Y=-37,000)を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形地区割である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に二分する(図12~13)。
 - 2) 鹿田地区では、岡上座標第5座標系(X=-149,800, Y=-37,400)を起点とし、座標軸をN 15° Eに振ったものを基軸とした構内座標を設定した。地区割は一辺5mの方形を用いている(図14)。
 - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は真北を、他は磁北を使用している。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。津島地区構内については、全城を「津島岡大遺跡」と総称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡毎に調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘調査など」に分類したものは、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で、試掘調査から連続して調査したもの、試掘調査を経ずに調査したものは、「試掘調査など」に分類する。
- 6 「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり、詳細は正式報告に依って頂きたい。「試掘調査など」については、本年報での記述を正式報告にかえる。
- 4 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
- 5 本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表1と一致する。
- 7 本文は、阿部芳郎・宮澤孝志・松木武彦・山本悦世が分担執筆し、執筆者名は末尾に記した。ただし、第1章第2節の繩文土器に関する記述と図6は阿部芳郎が担当した。
- 8 編集は稻田孝司センター長の指導のもとに、宮澤が担当した。
- 9 本年報に掲載の津島地区の地形図は岡山市発行の1/2500の地図を複製したものである。
- 10 調査・整理において以下の方々にご援助・教示を頂いた。記して感謝申し上げる。

大塚達朗、小部隆、沖陽子、河西学、木越邦彦、久保田尚浩、粉川昭平、鈴木茂之、鈴木正博、鈴木康之、高重進、高橋義、千葉尚三、中沢道彦、中村五郎、出崎博之、橋本雄一、藤原宏志、間壁忠彦、松井章、山田昌久

岡山大学構内遺跡調査研究年報10 1992年度

目 次

第1章 1992年度岡山大学構内遺跡調査報告	1
1 調査の概要	1
2 発掘調査	1
① 津島岡大遺跡第9次調査<工学部生体機能応用工学科棟予定地>	1
② 津島岡大遺跡第10次調査<保健管理センター予定地>	10
3 立会調査	13
(1) 津島地区	13
(2) 鹿田地区	13
第2章 1992年度普及・研究・資料整理活動	20
1 資料整理	20
2 分析依頼	20
3 刊行物	20
4 調査員の活動	21
5 日誌抄	23
6 1992年度までの遺物保管状況	24
第3章 1992年度活動のまとめ	27
附 表	28
岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項	37
1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定	37
2 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規定	38
3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規定	38
1992年度埋蔵文化財調査研究センター組織	40
1 センター組織一覧	40
2 管理委員会	40
3 運営委員会	41
附 錄	42

挿図目次

図1	津島岡人遺跡第9次調査 調査区位置図	1
図2	津島岡人遺跡第9次調査 上層柱状模式図	2
図3	津島岡大遺跡第9次調査 純文時代遺構平面図	3
図4	津島岡大遺跡第9次調査 古墳時代後期（10層）遺構平面図	5
図5	津島岡人遺跡第9次調査 古代（9層）遺構平面図	6
図6	津島岡人遺跡第9次調査 純文河道出土遺物	8
図7	津島岡大遺跡第9次調査 古代大溝出土遺物	9
図8	津島岡大遺跡第10次調査 調査区位置図	10
図9	津島岡大遺跡第10次調査 土層柱状図	11
図10	津島岡大遺跡第10次調査 近世前半（6層）遺構平面図	12
図11	津島地区全体図	16
図12	津島北地区	17
図13	津島南地区	18
図14	鹿田地区全体図	19

写 真 目 次

写真1	縄文時代遺構（西から）	4
写真2	貯蔵穴の断面	4
写真3	縄文後期上器出土状況	4
写真4	11層検出水口（西から）	5
写真5	10層検出東西溝（西から）	6
写真6	10層検出水出（北から）	6
写真7	古代大溝（西から）	7
写真8	7層検出遺構（西から）	7
写真9	3層検出遺構（西から）	7
写真10	2層上面の状況（南から）	12

表 目 次

表1	1992年度調査一覧	14
表2	埋蔵文化財調査研究センター収藏遺物概要	25
附表1	1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）	28
附表2	1991年度以前の構内主要調査（1983～1991年度）	28
附表2-(1)	発掘調査	28
附表2-(2)	試掘調査など	30
附表2-(3)	立会調査	31
附表3	埋蔵文化財調査室刊行物	36
附表4	埋蔵文化財調査研究センター刊行物	36
附表5	津島岡大遺跡から出土した木製品、木材化石の樹種	43
附表6	鹿田遺跡から出土した木製品の樹種	46

第1章 1992年度岡山大学構内遺跡調査報告

1 調査の概要

当センターにおいては大学構内における掘削を作り工事に際しては、事務局施設部企画課を通じて事務手続きを行ったうえで調査を行っている。調査は発掘調査、試掘調査、立会調査に分けて行っている。

これまでのところ、調査対象は津島地区と鹿田地区が中心になっている。特に鹿田地区は周知の遺跡（鹿田遺跡）の範囲内に入っていることから、掘削を作り工事に際しては届出を提出したうえで対応している。また、津島地区においても、新たな遺跡の確認が進んでいることから、遺跡の名称を「津島岡大遺跡」と総称し、届出の有無に関わらず、少なくとも立会調査を実施している。

1992年度は発掘調査2件（いづれも津島地区）、立会調査44件（津島地区33件、鹿田地区11件）を実施した。そのうち、発掘調査については本章でその概要を述べ、立会調査の詳細については表1（p.14）に示す。

(宮澤)

2 発掘調査

①津島岡大遺跡第9次調査（工学部生体機能応用工学科棟予定地、津島北地区 AV～AW・04）

調査の経過（図1・12）

この調査は、工学部生体機能応用工学科棟新館に伴って実施されたものである。調査地点は、1989年に新設された工学部生物応用工学科棟の東側に隣接する場所で（図1），その際に行われた津島岡大遺跡第6次調査では、縄文時代後・晩期の貯蔵穴と河道、弥生時代～近世の水田址、古代の水路などが検出されているため、⁽¹⁾今次の調査においても、これらの遺構の延続部分の状況を明らかにし、良好な遺物を得られることが予測された。

調査は7月1日に開始され、当初は12月25日に終了の予定であったが、最下の文化層と従来考えられていた層よりもさらに下層か

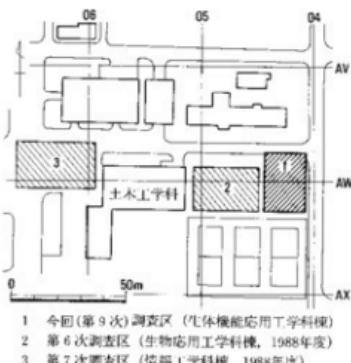


図1 調査区位置図 (1/2500)

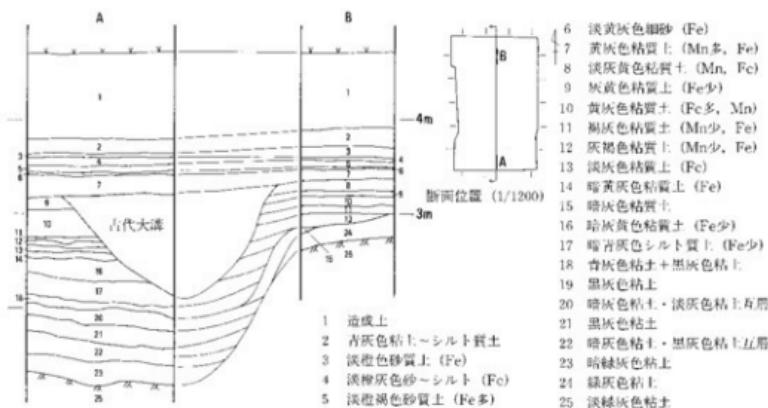


図2 土層柱状模式図

ら多量の土器が出土するなどの事情が生じ、土量も予測を大きく上回ったために、調査期間を延伸して1月29日に完了した。調査面積は約630m²で、調査員2名が担当した。

層序と地形（図2）

現地表面の標高は、4.6~4.8mを測る。1層は1907年の陸軍屯營地建設に伴う造成土である。2層はその直下の近代の耕作土に当たる粘土ないしシルトで、グライ化が進行して青灰色を呈する。3~5層はいずれも灰黄色ないし黄褐色系の砂質土層で、遺物量が少ないために明確な時期比定はできないが、近世の耕作土と洪水砂の累層である。7層はしまりの良い黄灰色粘質土からなる中世の水田層で、6層はこれを覆う洪水砂である。8・9層は灰黄色粘質土で、古代後半の水田層と考えられ、8層の上面には一部で洪水砂層が認められる。10層は暗黄灰色粘質土で古墳時代後期の水田層、11層は褐灰色粘質土で古墳時代前期ないし中期の水田層とみられる。12・13層は灰褐色系の粘質土で、それぞれ弥生時代の水田層と考えられるが、細かい時期比定は難しい。

13層以上は調査区のはば全面に堆積するが、14層以下は、南部をほぼ東西に走る繩文時代河道の堆積土や斜面堆積土から成り、層数・層厚ともにおおむね南へいくほど増す傾向がある。14~18層は繩文晚期~弥生前期にかけて河道を埋めた土とみられ、概して不均質な粘質土ないし砂である。最上層の14層には水田痕跡が認められたが、15層以下では水田は確認できなかった。19層はねばりけの強い均質な黒色粘土で、河道の斜面に堆積する。20~25層は河道の底に堆積した土で、淡緑灰色ないし黒灰色の粘土・シルトが細かい互層をなし、さらに細かく分けることも可能である。これらのうち、22層以下は繩文後期に属するが、20・21層には晚

期の土器片が混じる。25層は基盤の粘土層ないし砂層で、木片などを混じえるが、人工遺物は認められなかった。24層はその高い部分に被覆した層で、縄文時代の遺物をみる。

以上の知見を整理して把握しうる調査区の地形変遷は次の通りである。まず、縄文後期には調査区南部をほぼ東西に横切る河道があり、その斜面が北に向けて上がっていた。この河道は縄文晩期以後堆積が進んで、弥生前期の段階にはほぼ完全に埋まり、おおむね平坦な地形となつた。ただし、旧地形や周囲の地勢を反映して、埋積後しばらくはまだ北から南へ緩やかに傾斜した平坦面であり、古墳時代前～中期には南北の比高差30cmを測る。その後時代を追うごとにこの比高差は小さくなり、1907年の造成直前の水田面はほぼ水平である。

なお、西に隣接する工学部生物応用工学科棟用地の第6次調査における土層名との対応関係については、第6次調査が現在報告書作成途上のため、その刊行後にあらためて整理・調整することにしたい。

検出遺構（図3～7、写真1～9）

縄文後期～近代にわたる各時期の遺構が検出された。

まず、縄文時代の遺構としては、自然河道、貯蔵穴、焼土上塗、および河道の斜面に堆積した土器群などがある（図3、写真1）。河道は調査区南端部近くを底として、わずかな蛇行をみ

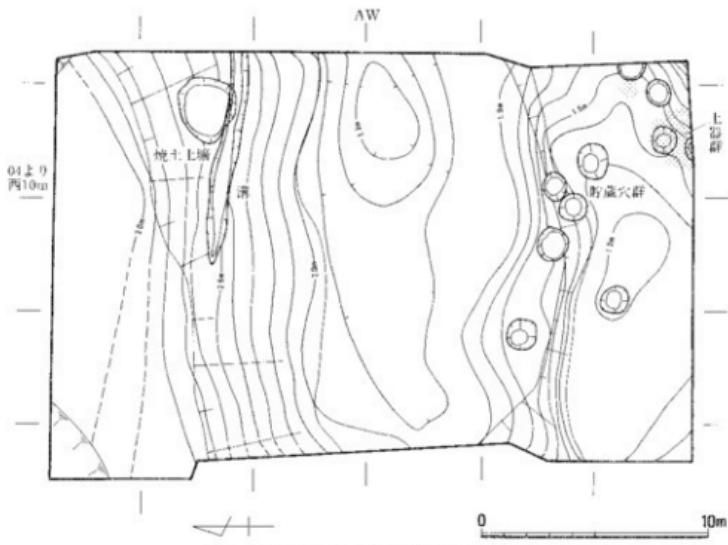


図3 縄文時代遺構平面図 (縮尺1/250)

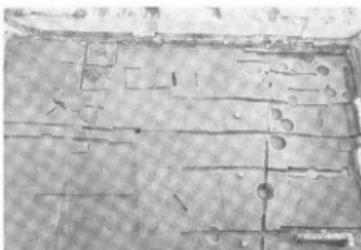


写真1 縄文時代遺構(西から)

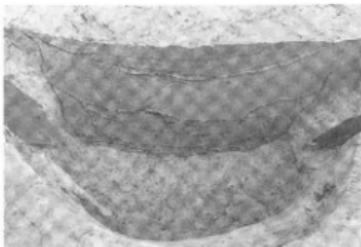


写真2 貯蔵穴の断面

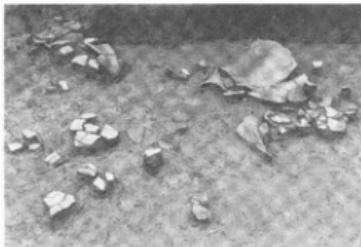


写真3 縄文後期土器出土状況

その他、後期から晩期にかけての土器片が河道の埋積土に含まれていたが、貯蔵穴と同じように、総じて東半部において密度が高いという傾向がみられる。

焼土土塊は調査区の北東部、河道の斜面が北へ向かって上がっていく部分にある。掘方はいくぶん不明瞭であるが、直径2.5～3m、深さ約50cmの不整円形の窪み状を呈し、ほぼ全体に大量の焼土塊が入るが、壁が焼けた痕は認められない。ほかに、やや不明瞭ではあるが、この土塊の南に接して東西に走る浅い溝が認められる。土塊および溝は、層位からみて縄文時代に属すると考えられるが、詳しい時期を示す遺物は得られなかった。

縄文晚期～弥生前期にかけての河道の埋積土に形成された遺構としては、18層上面の溝があ

せながらも、おおむね東西に走る。水は東から西へ流れていたと考えられる。北側の斜面はやや急な傾斜で50cmほど立ち上がったあと、いったん平坦となり、また緩やかに北に向かって上がる。

貯蔵穴は、この河道の斜面下部から底面近くにかけて、10基を検出した（写真2、巻頭写真）。法量は、大型のもので径1.5～1.6m、小型のもので約1mであり、深さは30～80cmを測る。掘込み面は3面に分かれるが、いずれも縄文後期に属すると考えてよい。全体として東半部に集中しており、群在する傾向が認められる。貯蔵穴から出土する堅果類としてはドングリが認められるが、断片的であり、貯蔵途中を示す充填した状態のものはなかった。ただし、そのうちの1基からは、底に敷かれた編物が発見され、またいくつかの貯蔵穴からは木本類の葉と細枝を敷いた層が検出されるなど、使用の状況を窺えるものがある。

縄文後期の土器群は、調査区の南東隅、河道の南斜面に堆積した状況で出土した（写真3、巻頭写真、図6）。層位的には少なくとも2群に分かれ、それらは後に述べるように、型式学的にも時期差を認めることができる。

る。まだ完全に埋まらずに残っていた河道の斜面下部から底付近に掘られた溝であり、深さ20～30cmで、断面は緩いU字形を呈する。何回かの掘り換えの跡もみられ、人為的な導水の痕かとも思われるが、はっきりした性格は不明である。

河道が埋まったあと、調査区全体は緩く南へ傾斜するほぼ平坦な面となり、各時期の水田・耕地が営まれる。そのうち弥生時代に属するのは12～14層の3面である。ただし、隣接する部分の既往の調査の結果や、出土した土器片から判断して、最下の14層が前期に属する可能性が考えられるほかは、詳しい時期は明らかでない。畦畔その他の残存状況はかならずしも良くなく、断片的にしか検出できなかったが、いずれも1辺2～3mの小区画水田とみられ、北東から南西へ緩く傾斜する自然地形に制約された方向に並ぶ傾向が認められる。

古墳時代前～中期に属する11層の水田も、弥生時代と同じような不整形の小区画水田で、地形に規制された方向に並ぶ（写真4）。こうした状況に対し、古墳時代後期に属する10層上面で



写真4 11層検出水田 (西から)

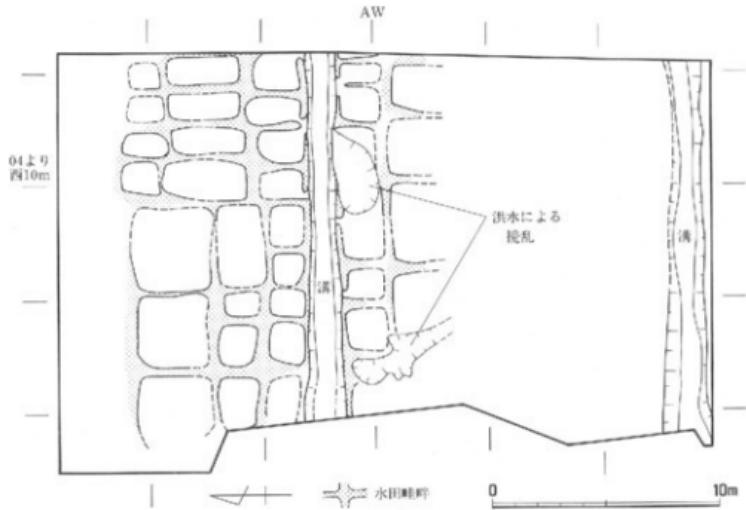


図4 古墳時代後期(10層)遺構平面図 (縮尺1/250)

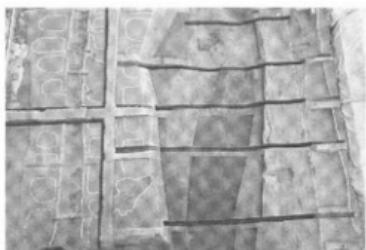


写真5 10層検出東西溝（西から）

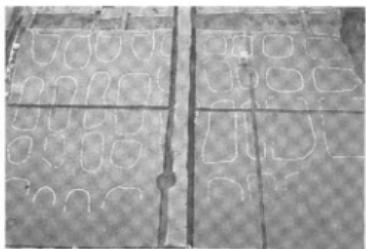


写真6 10層検出水田（北から）

は、正確に東西方向を指す直線の浅い溝2本が、調査区の中央部ならびに南辺沿いに平行して掘られ、水田も方位に沿って規則的に並ぶようになる（図4、写真5・6）。近接地の既往の調査、および今回出土の土器片などから判断して、耕地区画のパターンが上記のように変化した時期は、おおむね6世紀末から7世紀初頭頃と考えられる。

10～11世紀に属する古代の水田も、ほぼ同様の傾向をみせるが、この段階になると、調査区の南半分には東西方向の大溝が掘削される（図5、写真7）。全体の幅約10m、深さ1m以上の大規模な水路であり、副水路や、平行して走る小水路を伴う。要所に杭が設けられているが、調査区東辺寄りの杭群はとくに密であり、これを軸として水かさを上げ、南

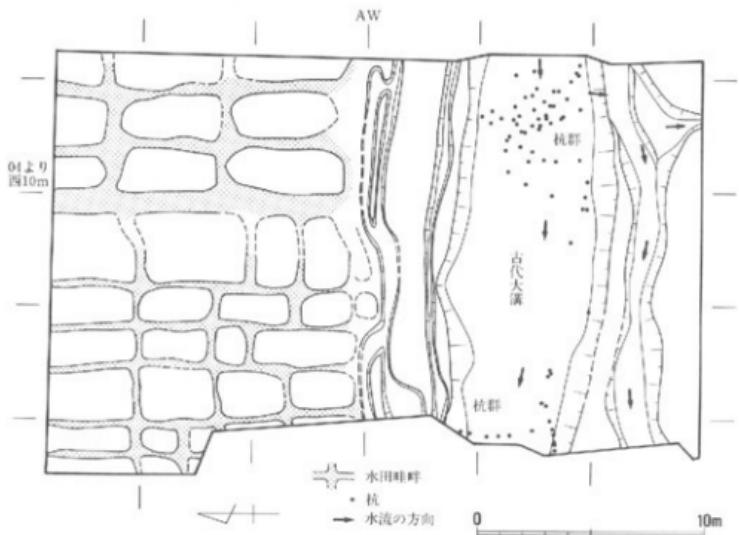


図5 古代(9層)遺構平面図 (縮尺1/250)

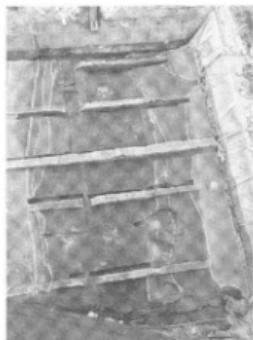


写真7 古代大溝（西から）

に平行する副水路や取水口に導水した状況が明らかである。また、西辺寄りにも杭がやや密集する箇所があり、ここにも堰もしくは水溜め状の施設が考えられる。この大溝は条里制施行に伴って掘削された可能性が高く、古代の間に少なくとも3度の改修が認められるが、規模は次第に縮小していく傾向にある。大溝の下層は粘土・シルト・砂ないしはそれらの互層をなしており、一定の水量をもった流水あるいは湧水があったと考えられる。また、これらの層からは多量の土器類および木器類が出土した（図7）。

中世に属する7層は、古代の大溝の位置をほぼ踏襲して幅約3m、深さ約40cmの東西溝が掘られる（写真8）。古代の溝よりは規模を縮小しているが、一定の流水はあったと考えられる。この溝の両側には、いわゆる鋤痕とも考えられる耕作痕が東西あるいは南北の方向に多数みられたが、畦や畠など耕地の区画を示すものは検出できなかった。北端近くに幅60~80m、深さ5~10cmの小溝5本が平行して南北方向に走るが、その意味は明らかでない。この層からは、13世紀代以降に属すると考えられる土師器碗や束縛系鉢などの細片が少量出土した。

近世の耕作面は、洪沢砂層をはさみながら3面が重なる。そのもっとも下層の5層上面では、中世の溝の位置を踏襲した東西水路と太い畦があり、これに北から南北方向に畦が交わる。また、これらの水路や畦に方向を揃えて、畝痕あるいは耕作痕がみられる。砂層を挟んだ上層の3層上面（写真9）では、前段階の位置をほぼ踏襲しつつ改修された東西水路とそれに平行・直交する畦、野菜が検出された。明治時代の造成直前の2層上面でも、水路や畦の状況はほぼ同じである。南北畦の西側を除いて明瞭な畝痕が認められた。

出土遺物（図6・7）

縄文後期～近代にかけての各時期の遺物が得られたが、とくに量が多く、注目すべき遺物としては、河道から出土した縄文後～晩期

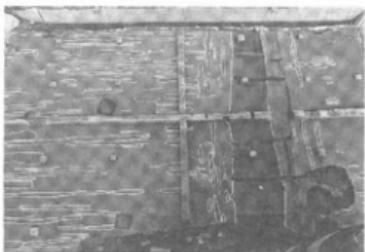


写真8 7層検出遺構（西から）

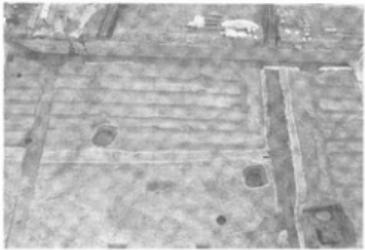
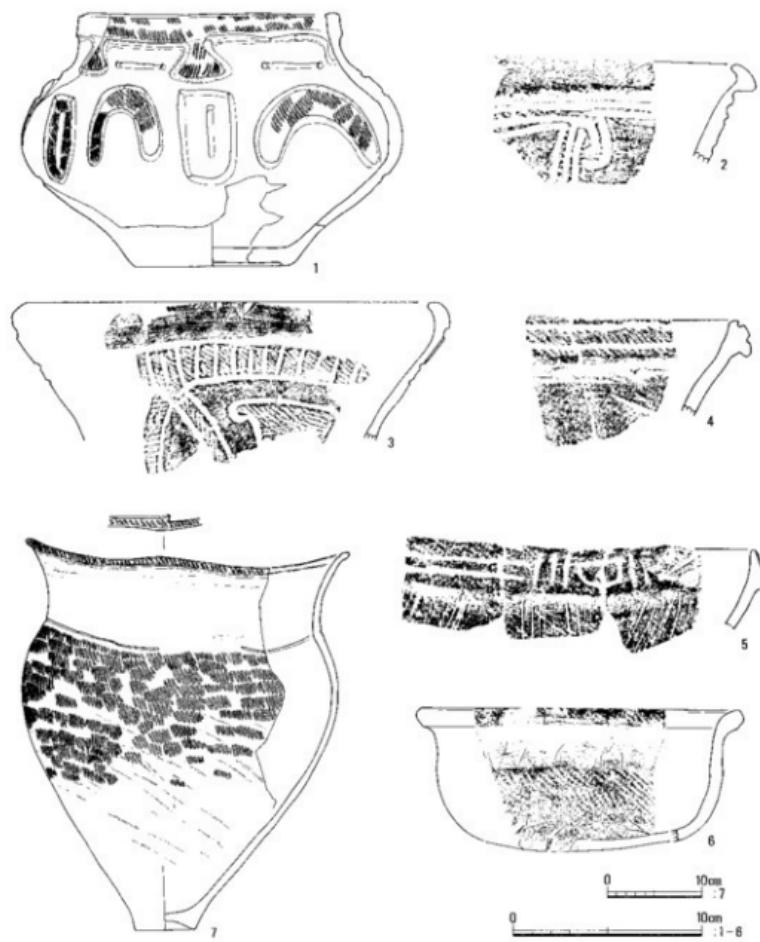


写真9 3層検出遺構（西から）



番号	器種	底盤(cm) 口 径 底 直 植 器 高	形態・手汰の特徴ほか	文様突出技法	色 調	胎 土
1	鉢	(14.1) (8.4) 13.2	外面ナデ。内面ナゲ凹凸残る	沈線一繩文 (R.L.) 黒褐色～灰褐色		石英長石多く含む
2	鉢	- - -	内面ナデ。ミガキ	沈線一繩文 (R.L.) 灰褐色		石英長石多く含む
3	鉢	(21.0)	内面磨きガキ	沈線一繩文 (B.L.) 黄褐色～暗褐色		石英長石多く含む
4	深鉢	- - -	内外面ナデ	沈線一繩文 (B.L.) 灰褐色		石英長石多く含む
5	深鉢	- - -	内外面ケズリ。ナゲ	沈線一繩文 (B.L.) 灰褐色		石英長石多く含む
6	鉢	(15.3)	(7.5) 内面ケズリ→ナゲ。外表面ナデ	繩文 (R.L.) 黑褐色		石英長石多く含む
7	深鉢	(34.2) 6.3	内面ケズリ・ナゲ。外表面貝朱貝→ナゲ	繩文 (R.L.) 灰褐色		石英長石多く含む

米法量 () 付は復元値

図6 繩文河岸出土遺物 (縮尺1/3, 1/6)

の土器と、古代の大溝から出土した土器および木器類がある。

河道の斜面に堆積した状態で出土した縄文土器は、層位的に2群に分かれる。2~7は22層からの出土であり、深鉢を中心にいくつかの器種があり、後期前葉から中葉の段階に含まれる資料である。1は、それよりも下の23層からほとんど単独に出土した壺で、磨消縄文の沈線の幅や紋様の特徴などから、中津式の範疇で捉えられよう。そのほか、河道の各所から後期~晚期にかけての土器片が出土している。

古代の大溝からは、10~11世紀頃に属するとみられる土器類が多く出土した(図7)。大溝埋土は4次に分かれ、遺物は可能な限り分別して取り上げた。もっとも古い掘削当初の溝の埋土に属するものが4・5・7、1回目の改修後に属するものが1・2・6、2回目の改修後が9、いちばん新しい3回目の改修後が3である。一群の中では比較的新しい形態を示すと考えられる7が最古段階の埋土に属するなど、水路という性格上、個々の遺物や層位の搅乱は否定できない状況にあろう。ただし、各段階の埋土ごとに全出土資料の総体的な傾向を折出する作

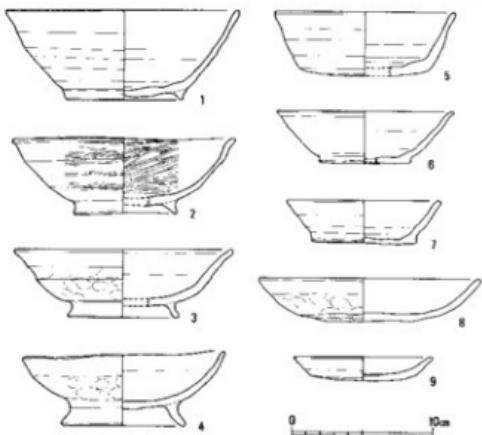


図7 古代大溝出土遺物

業により、変化の大筋を追える可能性はある。木器類は、多量の杭、および建築部材とみられるもの数点のほか、杓子が出土している。

その他の時期の遺物としては、古墳時代前期の溝に作られた古式土師器や、中世溝出土の土器・動物骨などがあるが、残りはおおむね水田層からの出土が主で、細片が多く全形を知りうるものはほとんどない。

番号	器種	法 量(cm)	形 态・手 法 の 特 徴 ほ か	色 艶	助 土
1	深底貫 瓢	(16.5)	8.3 6.4 内外面縦い回転板ナギ、底面オサエ、焼皮型織	灰	細砂少、並
2	「丸」貫 瓢	15.4	7.3 5.4 内外面横ナギ後面くガキ、内面に炭素後蓋、「墨色」器入類	後蓋灰(外側)	粗砂含み、やや粗
3	「丸」貫 瓢	(15.4)	(7.8) 4.0 外面上半はごく弱いナギ、下半は指オサエ、赤色顔料微帯	後蓋灰	細砂少、粗
4	上圓貫 瓢	14.6	8.6 5.1 内面~外面上半横ナギ、外底トボオサエ、器形歪み大、顔料微布	燒接灰	細~粗妙、やや粗
5	深底貫 瓢	(12.6)	(9.2) 4.5 内外衝撃・凹凸横ナギ、底面磨ケズリ	灰	細砂少、並
6	土師盃 瓶	(12.5)	(8.5) 3.7 内外衝激・横ナギ、底部無切り、器壁薄い	透灰斑	粗砂含み、やや粗
7	土師貫 瓶	10.9	7.3 3.1 内外衝激・横ナギ、底部無切り	透粗灰	粗砂多く、粗い
8	「丸」貫 瓶	(16.6)	(6.5) 3.1 内外面横ナギ、外底トボ・底部指オサエによる凹凸織	黄褐灰	細砂少、ごく精良
9	「丸」貫 盆	9.7	7.5 1.7 内外面横ナギ、底面不平行方向の粗いナギ	灰黑	粗砂少、精良

*法量()付は後元器

調査の意義

今回の調査では、まず第一に、近接地における既往の第6・7次等の調査に引き続いて、この地域における土地開発・耕地利用の変遷過程を明らかにすることができた。とりわけ、条里制施行に伴って掘削されたと考えられる古代の大溝の時期や改修の過程を克明にあとづけられたことや、自然地形に規制された弥生時代・古墳時代前半の水田区画が、方位優先のそれに変化する状況をさらに詳しくたどりえたことは、古代国家の形成から完成、変容に至る過程での、土地利用システムの歴史的变化を考察するための貴重なデータとなろう。

第二に、縄文時代後期の貯蔵穴を検出し、その構造を明らかにできたことにより、この地域における縄文時代の生活様式を復元するための良好な資料が得られた。これらは、人間と生態系との関わりという視点から、原始社会の特質やその発展の過程を解明するための大きな手がかりのひとつとなりえよう。

また、古代および縄文時代を中心とする土器資料の充実は、その型式学的研究の進展に大きく寄与するものと期待できる。(松木)

(松木)

②津島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター予定地、津島南地区 BB～BC・10～11区）

調査の経過(図8・13)

保健管理センターを、既存建物の東隣に新設するに当たり、さる1983年度に予定地東側に接して試掘を行った結果、明治時代以下の水田各層と黒褐色の有機質上層の存在を確認すると同時に、溝状の造構や土器細片を検出していた。さらに、基盤と考えられる砂屑ないし砂礫層を、標高3m前後という、津島地区内としてはごく浅いレベルで確認したことから、⁽¹²⁾調査区は旧来の敵高地に当たるものと考えられ、大きな削平を受けていない場合には居住域の存在も

予測されていた。

調査期間は6ヶ月の予定で2月1日 начав
したが、1992年度分の事業としては3月末をもって一回終了した。調査面積は約400m²で、担当の調査員は2名である。以下では、92年度分の調査で明らかになったことを報告する。

層序と地形(図9)

80 1層は、1907年の陸軍屯營地建設に伴う埋立である。その直下の2層は近代の耕作土で、青みを帯びた灰色～黄灰色を呈する粘上ない1けシルトである。3層および4層は近

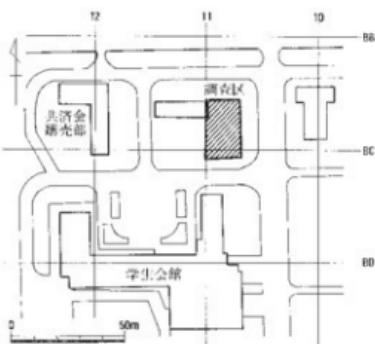


図8 調査区位置図 (縮尺1/2500)

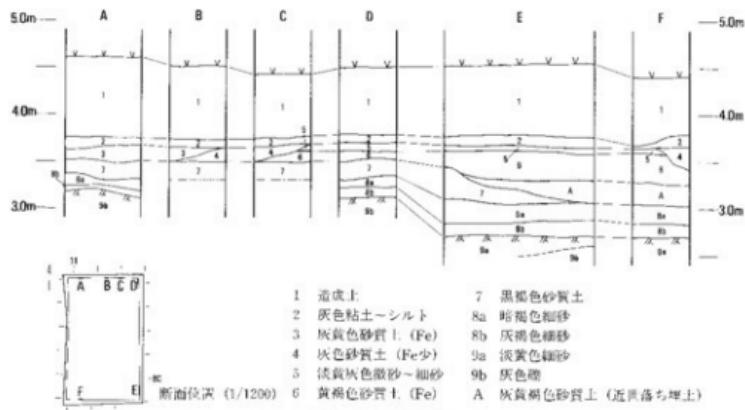


図9 土層柱状図

世の造成土とみられ、灰～灰黄色の砂質土である。これらは調査区の西半部のみに存在していた。5層は近世の洪水によると考えられる淡黄灰色の微～細砂層であり、下の6層を覆う。6層は近世の造成土と考えられる黄褐色の砂質土で、上面には5層の洪水砂に覆われた状態で耕作痕が認められた。5層と6層とは調査区の東半部のみにみられる。

7層以下は、弥生時代の遺構・遺物を多量に包含する灰褐～黒褐色砂質土である。6層以上の層界はきわめて明瞭な不整合をなし、近世の削平・造成が弥生時代層にまで及んだ状況が明らかに見て取れる。すなわち、この調査区では近世層の直下に弥生時代層がみられ、その間の各時期の層位は残っていない。

調査区の側溝や先行トレチなど壁面観察によれば、弥生時代層は、深くなるほど色調が淡くなり、砂質が強まる傾向が全体に認められる。すなわち、やや粘性を帯びた黒褐色砂質土の7層、暗褐色細砂の8a層、灰褐色細砂の8b層に分けうるが、それらの層界は明瞭でない。9層は基盤と考えられる無遺物層で、淡黄色細砂の9a層と灰色砂層の9b層とが大きな互層をなす。その上面は調査区内でもかなりの高低差があるが、総じて南へいくほど低くなる。検出遺構（図10・写真10）

1992年度は、もっぱら近世～近代の造成・耕作土に当たる2～6層の調査を行い、その耕地造成の過程をはば明らかにすることができた。

まず、近世のある段階で人規模な削平が行われ、調査区のほぼ全面が標高3.5～3.6mのレベルではほぼ水準に抑えられている。この削平面で直接耕作が行われたかどうかは定かでないが、7層上部に近世土器の細片が食い込んだ状況がみられることから、耕作に伴う土層の攪拌が弥

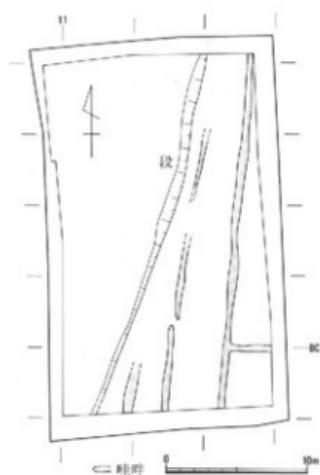


図10 近世前半(6層)造構平面図 (縮尺1/400)

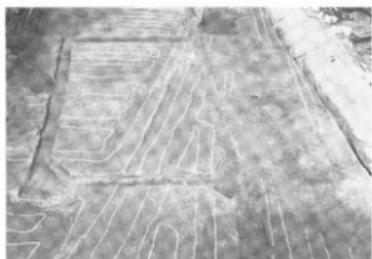


写真10 2層上面の状況 (南から)

わないので斜めの地割りは特異であるが、この斜めのラインは地籍図上でも確認できる。

出土遺物ほか 近世および明治時代の遺物は、2~6層から染付などの陶磁器の細片がわずかに出土している程度であり、各層の詳細な時期を決定できるようなデータは得られなかつた。側溝ならびに先行トレーナーからは、7層以下に属する弥生時代後期の土器や古式土器などが多量に出土し、この時期の遺構が濃密に存在することが予測できたが、その本格的な調査は次年度に委ねられることとなった。

(松木)

註(1) 『岡山大学構内遺跡調査研究年報』6, 1989, 16~23頁

『岡山大学構内遺跡調査研究年報』7, 1990, 8~10頁

(2) 『岡山大学構内遺跡調査研究年報』1, 1985, 26~27頁

生時代層の最上部にまでは及んだ可能性が高い。その後、6層に当たる土が盛られ、上面で耕作が行われている。その面が5層の洪水砂に覆われたあと、調査区を北東から南西に斜めに走るラインを境に、西側は洪水砂ごといったん削り下がられ、段が形成される(図10)。

その後、この段から西へ埋立てが進み、まず4層、そして3層が盛られる。4層は段から2~3mほど西へ張り出すように盛られることにより(図9-B・C断面)，それまでの段が西へ平行移動した形になる。段の上端には駐道状の通路がみられ、これに沿う部分に野窓3基がある。

3層は、野窓を埋めてさらに西側に向かって盛られており、南西端部分を残して、調査区の全面が標高約3.6~3.7mまではほぼ水平に埋め立てられる。ただし、もともと段であったラインは耕地の区画として後まで残らしく、2層、すなわち1907年の造成直前の段階においても、畦道として利用されていた(写真10)。これまでの津島地区の調査結果からみても、このような東西南北の方位に沿

3 立会調査

(1) 津島地区(表1, 図14, 15)

1992年度における津島地区の立会調査は、事業別にみると44件、総計で60ヶ所の調査が行われた。それらは掘削深度が浅く、造成土内で終了したものが大半で、調査15のみが黒色土上面まで掘削がおよび、狭い範囲内であったが、2条の溝を検出した。他は深いものでも造成土下の近世の層内で終了している。これらの深度の浅い調査の中でも、現地表面を平坦に修正している造成土の厚さは、旧地形の復元に役立つ有効な情報である。こうした観点からみた場合、今年度の調査の記録も地形復元の資料として有効に活用されるであろう。

調査34は沖島キャンパスの中央北端に位置し、電柱掘削機を用いて3mまで掘削したが、ここでは170cmにおよぶ造成土の下に青灰色の粘土層と黒色粘土の堆積が認められた。こうした層準はキャンパス内の高地部分とは明らかに異なるもので、そこに湿地状の地形が存在したことと示唆するであろう。

調査37ではボーリングによる地質調査のために南北道路に沿った約250mのライン上の4ヶ所の掘削を行ったが、ここでは北から南に向かい、次第に造成土が厚さを増している状況が確認され、さらに調査25では旧地形が南北道路の東から西に傾斜することを示す造成土の堆積が確認できた。また、南北道路の西側には高地部が広がり、南端では1991年の調査により、谷状の地形の変換点が確認されているので、この地域に比較的大きな谷状の地形があったことが推測されるであろう。本年度に実施した保健管理センターの調査(調査2)では、弥生時代後期から古墳時代初頭の集落の一部が明らかにされたが、こうした集落の立地は、上述した谷状地形の東側の高地部に展開していると考えられる。構内の微地形の観察は、遺跡とそれをとりまく景観を復元する際の重要な情報となることを示している。

(2) 鹿田地区(表1, 図16)

鹿田地区では事業別にみて11件、24ヶ所の立会調査が実施された。掘削深度は造成土内及び、その直下で終了したものが大半で、一部に中世の包含層に達するものがあったが、電柱の仮設等の掘削面積の小さいものであった。調査41は電柱部分を機械掘削により現地表下120cmまで掘削し、約100cmの深度の青灰色土層より、古代の土器の細片を検出したが、掘削面積が小さいために、それ以上の情報は得られなかった。

なお、立会調査の連絡状況については、特に津島地区において連絡の遅れたもの、あるいは連絡のないものがあった。担当部局の迅速な対応と連絡の徹底が今後に要求されるであろう。

（阿部）

注

(1) 『岡山大学構内遺跡調査研究年報』9 1992年 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

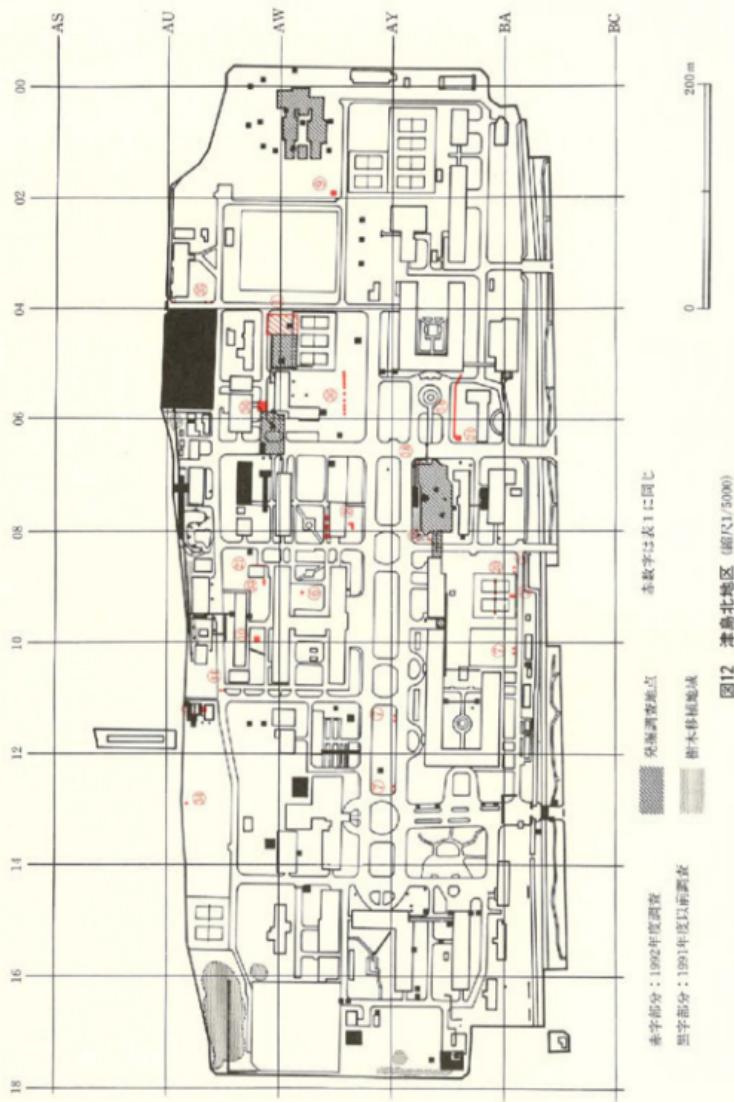
表1 1992年度調査一覧

番号	種類	調査地区	所員	調査名称	調査期間	測量深度(cm)	備考
1	発掘	津島北 AV~AW01	工	生体機器巡回用土器発掘	7.1~'93.1.29	3.5	調査面積650m ² 古代~弥生水田、古代人拂 織文後期の窯火、既出土鐵 河道、土器 (津島岡大9次調査)
2	発掘	津島南 BB8~HC- 10~11区	保	保健管理センター	'93.2.1~ 3.31		調査面積400m ² 近江野立 (津島岡大10次調査)
3	立会	津島北 AZ09	理	理学部テニスコート水道管修理	4.13	0.4	造成土内
4	#	津島南 BB19	道	道伝子実験施設 ハンドホール設置	4.27, 4.30 5.01	0.8~1.4 GL-110cmで明治層 +セメント上面まで	
5	#	津島南 BB14	道	道伝子実験施設 電力外線工事	5.18, 19		造成土内
6	#	津島北 AW09	工	二学部中庭記念植樹植栽	5.27	0.4	造成土内
7	#	津島北 AV11, 12 BA08, 10	理	駐車場表示板設置	5.27	0.4	造成土内
8	#	津島北 AW07, 08	工	精密応用化学津島北水道管修理	6.01	0.4	緊急立会、造成土内
9	#	津島南 AW01	学	雨水器取り替え	7.15	0.6	造成土内
10	#	津島北 AV07	工	水道管修理	7.16	1.2	造成土内
11	#	津島南 BB19	機	機械整備	7.31	0.5	造成土内
12	#	津島南 BB09	事	留学生センター LL教室機械設備工事	8.07	0.3~0.5	造成土内
13	#	津島北 AB11	理文	白板車運き機設置	8.21	0.4	造成土内
14	#	津島北 AK05	教育	電線絶縁不良修理	9.11	0.8	緊急立会、造成土内
15	#	津島南 BB18, 19	工	道伝子実験施設 ハンドホール設置	10.01, 12	0.7~1.5 GL-75cmで切削層土内 陶文柱加留まで、調2本検出	
16	#	津島南 BB18	道	道伝子実験施設 機械室配線工事	10.06	0.95	明治層上面まで
17	#	津島南 BB11	保	保健管理センター プレハブ建設	10.15, 16	0.3	造成土内
18	#	津島北 AV06	理	樹木の移植	10.20	0.4	造成土内
19	#	津島南 BB10	道	道伝子実験施設木体外周整備	10.20	0.7	造成土内
20	#	津島北 BA08, 09	理	テニスコート ネットポール付け替え	10.20	0.5	造成土内
21	#	津島北 AX09	工	ホイラー空配管	10.29	0.8	造成土内
22	#	津島南 BB11	保	保健管理センターアース板埋設	12.01	0.7	造成土内
23	#	津島南 BB04	学	課外活動施設アース板埋設	12.02	0.2	造成土内

番号	種類	調査地区	所属	調査名稱	調査期間	測定深度(m)	備考
24	立会	津島北 AV05	理	アース板埋設	12.03	0.7	造成土内
25	"	津島南 BG12	半	仮設電柱設置	12.03	1.2	GL-110cmで明治層上面
26	"	鹿田 BY26	R I	R I 総合センター ケーブル埋設	12.10	2.2	共同溝の擁乱および、 鹿田第6次調査区内部
27	"	鹿田 BB64～BG64	R I	R I 総合センター ガス管配管	12.10, 11	1.5	造成土内
28	"	鹿田 BB66	R I	R I 総合センター 1.5m深さ渠蓋水栓埋設	12.14	1.3	GL-93cmで明治層上面 鹿田第6次土層Ⅱ層まで
29	"	鹿田 BB71, CA71	R I	R I 総合センター 1.5m深さ渠蓋水栓埋設	12.17, 24	1.4～1.5	小波の第1本検出
30	"	鹿田 BB65, 66 BB66, 71 BB66, CA66 CB66, CC66～72	R I	R I 総合センター ヒューム埋設	12.21, 1.07 1.08, 12.13	0.5～1.2	明治層まで
31	"	鹿田 CB80～CD80	R I	R I 防災設備 消火栓の電気配線	1.20	0.8	造成土内
32	"	津島南 BB10	保	保健管理センター樹木移植	1.20, 21	0.6～0.8	GL-100cmで明治層上面、 明治層まで
33	"	津島北 AV09	I.	ボイラー系水管改修工事	3.01	1.2	GL 110cmで明治層上面 明治層まで
34	"	津島北 AV12	区	付属畠地維持開拓準備整備	3.02	3.0	GL-170cmまで埋土 黒色粘土まで
35	"	津島北 AV03	T.	牛体搬送用T字型構造新設 電気設備工事	3.03	0.9～ 0.95	造成土内
36	"	津島北 AV05, AZ05	工	情報工学科南側機械棧橋	3.08～11 3.19, 25	0.6～1.5	造成土内
37	"	津島南 BB, BD BG12	少	下水道渠にに関する地質調査	3.18	1.1～1.5	造成土の厚さ110～140cm 明治層まで
38	"	津島北 AV08	自	自然学科棟外灯取付け	3.18	0.8	造成土内
39	"	津島南 BB18	道	道伝子史跡施設整備水栓取付け	3.19	0.79	造成土内
40	"	鹿田 BB86～ CB84, 87	区	動物実験室西側環境整備	3.22	1.1～1.3	造成土の厚さ110cm 中世層まで
41	"	鹿田 CI66	医	テニスコート脇電柱埋設	3.23	1.2	造成土の厚さ100cm 近世層？まで、古代土層1点
42	"	鹿田 AL55～AM68 AM64～AM62	医	動物実験室改修側 駁通場理整備	3.23	0.5～0.7	造成土内
43	"	鹿田 CW, CX39 CO45, 46	医	外水棟北側駐車場整備ほか	3.26	0.7	造成土内
44	"	津島北 AV11	工	車止め取付け	3.26	0.4	造成土内
45	"	鹿田 BI33	区	付属病院中庭模アース埋設	3.29	1.65	埋瓦内
46	"	津島南 BB18	医	外灯取付け	3.31	0.8	造成土内



図11 津島地区全体図 (縮尺1/15000)



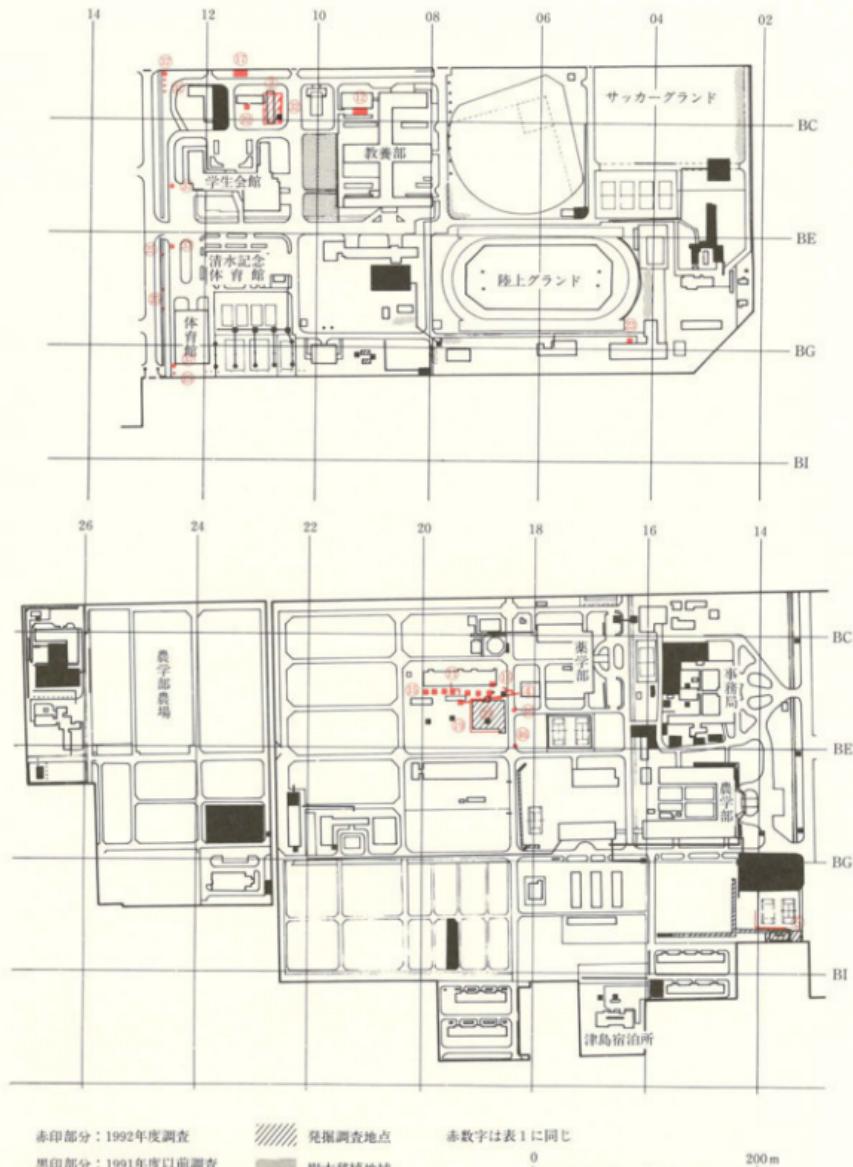
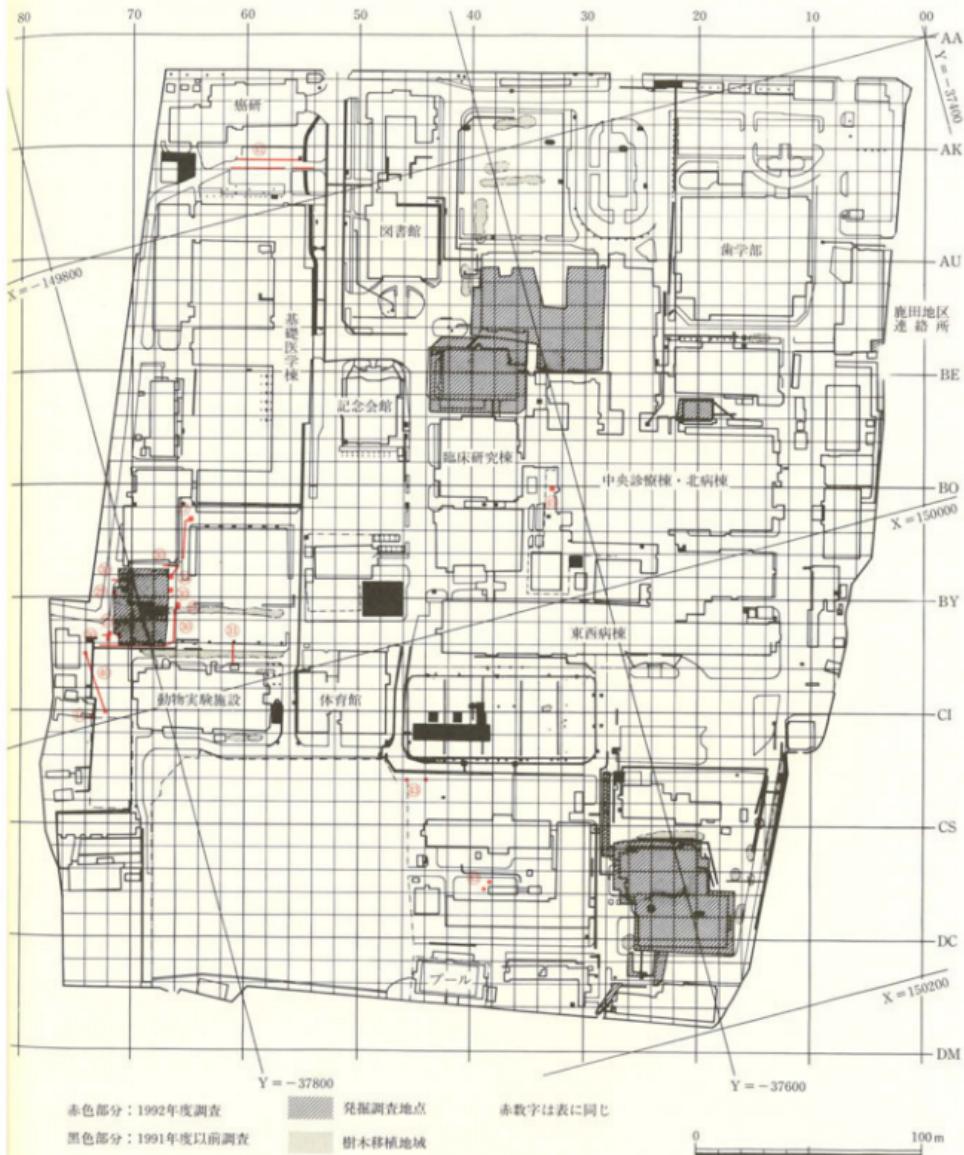


図13 津島南地区 (縮尺1/5000)



第2章 1992年度普及・研究・資料整理活動

1 資料整理

本年度は次の6件の発掘調査の資料整理を行った。

- ① 鹿田遺跡第5次調査（医学部及び同付属病院管理棟）
報告書刊行
- ② 津島岡大遺跡第5次調査（自然科学研究科棟）
出土遺物の復元、実測、トレース、出土種子の採集、分類
- ③ 津島岡大遺跡第6次調査（工学部生物応用工学科棟）
出土遺物の復元、実測、遺構のトレース、出土種子類の採集、分類
- ④ 津島岡大遺跡第7次調査（工学部情報工学科棟）
出土遺物の復元、実測、遺構のトレース、出土種子類の採集、分類
- ⑤ 鹿田遺跡第6次調査（RI総合センター）
遺物の洗浄、注記
- ⑥ 津島岡大遺跡第8次調査（遺伝子実験施設、合併処理槽）
遺物の洗浄

2 分析依頼

- ① 石器石材の岩石種同定…岡山大学理学部講師 鈴木茂之
津島岡大遺跡第5次調査：縄文時代後期の石器群
- ② 出土種子の同定…岡山大学農学部助教授 沖陽子
津島岡大遺跡第5次調査：縄文時代後期の貯蔵穴
- ③ 縄文土器のプラントオパール分析…宮崎大学農学部教授 藤原宏志
津島岡大遺跡第5次調査：縄文時代後期の土器
- ④ 縄文土器の粒度分析…幡山梨文化財研究所 河西学
津島岡大遺跡第5次調査：縄文時代後期の土器
- ⑤ 出土種子の同定…大阪千代田短期大学教授 粉川昭平
津島岡大遺跡第6次調査：縄文時代後期貯蔵穴出土の種子
- ⑥ 井戸出土の牛骨の分析…奈良国立文化財研究所 松井章
鹿田遺跡第5次調査：中世井戸出土の牛の頭骨
- ⑦ 放射性炭素年代測定…学習院大学理学部教授 木崎邦彦
津島岡大遺跡第8次調査：縄文時代後期の土壙

3 刊行物

- ① 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号

1992年8月発行

- ② 岡山大学構内遺跡調査研究年報 第9号 1992年12月発行
 ③ 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第9号 1993年3月発行
 ④ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第6冊 1993年3月発行

※なお、1991年までの刊行物については附表3・4にて挙げている。

4 調査員の活動

(1) 資料収集活動

阿部芳郎

中部瀬戸内における縄文時代後期土器の実査：福山市教育委員会、広島県立博物館、岡山県立博物館、倉敷考古館、古代吉備文化財センター

西南四国における縄文時代後期土器の実査：高知県埋蔵文化財センター、御荘町教育委員会

縄文時代後期の堅穴住居模型の設計と展示計画：山梨県富士吉田市歴史民俗博物館

縄文土器の製作技術の分析方法について（ソフトX線撮影と粒度分析について）：鶴山梨文化財研究所

神奈川県綾瀬市兵衛谷遺跡発掘調査参加（学術調査）

土井基司

種子鑑定資料返却：大阪市自然史博物館

富樫孝志

縄文時代後・晩期石器の実査：福山市教育委員会、倉敷考古館等

石灰岩地帯における遺跡、及び第四紀哺乳類動物化石産出地点の調査：岡山県阿哲台、岐阜県熊石洞

松木武彦

古墳時代の武器武具資料の実査：京都大学文学部博物館

山本悦世

南西四国の縄文後期土器の資料収集

(2) 学会・研究会等参加

阿部芳郎

考古学研究会総会（4月）

土井基司

考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会（10月）、埋蔵文化財研究会（2月）

富樫孝志

考古学研究会総会（4月）、中四国旧石器文化談話会（9月）、世界考古学會議中間会議（1月）

松木武彦

考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会（10月）、埋蔵文化財研究会（2月）

山本悦世

考古学研究会総会（4月）、第6回九州・釜山考古学共同研究会（7月）

(3) 研究発表他

阿部芳郎

「厚手式から薄手式への変遷—後期の土器生産体制の確立と技術変遷—」考古学研究会岡山例会

松木武彦

「中・四国地方における古墳出土武器武具の変遷」埋蔵文化財研究会

(4) 論文・資料報告他

阿部芳郎

「縄文時代早期における植物質食料加工用石器の在り方と生産活動—磨石、石皿多座遺跡の性格と生産活動の構成について—」『信濃』第44巻第9号

「土棚遺跡出土の堀之内2式土器に関する所見」「土棚遺跡（縄文時代編）」綾瀬市埋蔵文化財調査報告3

「土棚遺跡出土の堀之内2式土器の器種とサイズ」同上

土井基司

「横穴式石室式石室から見た群集墳の諸相—博多湾周辺地域を中心に—」『九州考古学』

第67号

「須恵器」（近藤義郎編『吉備の考古学的研究』山陽新聞社）

富澤孝志

「相模野第Ⅳ期前半における集団関係の予察 茂呂系ナイフ形石器の検討からー」（岡山大学構内遺跡調査研究年報9号）

松木武彦

「古墳時代前半期における武器・武具の革新とその評価—軍事組織の生成に関する一試考—」『考古学研究』第39巻第1号

「蓋形埴輪の型式と範型」（『兜町』埋蔵文化財研究会15周年記念論文集）

「武器・武具」（福永伸哉編『雪野山古墳発掘調査概報』）

日本第四紀学会・小野昭・春成秀爾・小川静夫編『図解・日本の人類遺跡』東京大学出版会（共著）

山本悦世

「弥生時代のガラス」（近藤義郎編『吉備の考古学的研究』山陽新聞社）

「須恵器」（近藤義郎編『吉備の考古学的研究』山陽新聞社）

「吉備南部地域における古代末～中世の土師器の展開」（『中近世土器の基礎研究』Ⅶ・日本中世土器研究会）

「吉備系土師器窯の成立と展開」（『鹿田遺跡3』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）

5 日誌抄

1992年		
4月1日	年度始め打ち合わせ	溶液の濃度を30%に上げる
4月27日	今年度の予算検討	岡山県立博物館に貸し出していた繩文上器、返却される。
4月28日	月例会議	月例会議
	今年度の活動計画	9月17日 阿部、富樺、資料見学のため倉敷考古館へ出張
5月1日	木器処理空掃除	9月29日 阿部、富樺、資料見学のため、福山市教育委員会へ出張
5月6日	運営委員会	10月5日 木器処理、PEG溶液の濃度を40%に上げる
	1991年度事業報告、1992年度予算案	10月8日 月例会議
	1992年度事業計画	10月23日 農学部実験農場の試掘調査について、企画課と打ち合わせ
5月7日	『津島岡大遺跡3』発送	11月6日 月例会議
5月19日	沖陽子氏に津島岡人遺跡第5次調査 繩文後・晚期貯蔵穴出土種子の同定を依頼	11月9日 木器処理、PEG溶液の濃度を50%に上げる
5月25日	阿部、津島岡人遺跡第5次調査出土 の繩文上器の粒径分析依頼のため、 山梨文化財研究所へ出張	11月10日 阿部、富樺、山本、資料見学のため、愛媛県、高知県へ出張
5月26日	管理委員会	12月7日 月例会議 調査補助員採用の検討
	昨年度決算、今年度予算について	12月18日 木器処理、PEG溶液の濃度を60%に上げる
6月7日	月例会議	12月21日 大掃除
	報告書の作成進行状況、津島岡人遺 跡第9次調査及び、臨時用物貯の雇 用について	12月21日 年報9発送
6月10日	報告書の休載に関する検討会	12月28日 御川納め
6月16日	津島岡大遺跡第11次調査の日数計算 を企画課に提出	1993年
6月17日	1992年度調査のスライド報告会	1月4日 仕事初め
7月1日	津島岡人遺跡第9次調査開始	1月7日 月例会議
	現場で企画課、建築課と打ち合わせ	1月11日 企画課、建築課と津島岡大遺跡第 10次調査の打ち合わせ
7月17日	月例会議	1月20日 運営委員会
7月21日	木器処理準備開始	1月23日 津島岡人遺跡第9次調査、現地説明 会
7月28日	岡山県立博物館に津島岡大遺跡第5 次調査出土の繩文上器を貸し出す	1月29日 津島岡大遺跡第9次調査終了
8月13日	山本、土井、粉川昭平氏に津島岡人 遺跡第6次調査繩文後期貯蔵穴出土 の種子同定を依頼（大阪）。	2月1日 津島岡大遺跡第10次調査開始
8月21日	博物館実習開始受講生十数名 発掘 作業と土器ラベリング、種子の選別 を行う。	2月25日 津島岡人遺跡第10次調査レベル測量
8月28日	博物館実習終了、木器処理、PEG	3月2日 月例会議
		3月9日 木器処理、PEG溶液の濃度を65%に上げる

6 1992年度までの遺物保管状況

(1) 遺物収蔵量（表2）

1993年3月31日における本センターの遺物収蔵量は、表2のようになっている。発掘調査では、津島岡大遺跡9次調査（工学部生体機能工学科棟）でコンテナ258箱分、同遺跡10次調査（保健管理センター）は1993年度に継続の調査であったが、約2ヶ月間の調査で3箱分の遺物が出土している。一方、試掘・立会調査では、試掘調査がなかったことや立会調査がほとんど造成工内で終ったことから遺物は非常に僅少で、昨年度の遺物量と大きな差はない。以上の結果、総箱数は1557.3箱となった。

箱の容量は約30ℓを目安としている。また、木器の中で大型水槽に保管のものについては1箱に換算して計算している。

(2) 管理・保管施設

本センターの施設は、昨年度と変化はなく、鹿田地区では旧混合病棟東にある旧管理棟2階の一室に連絡所が、そして、津島地区では管理棟・収蔵棟・木製品保存処理棟がある。収蔵棟では、遺物の整理・保管、器材の保管などを行っているが、そのほかに簡易ではあるが、遺物展示室や写真撮影室も設置している。また、年度末には、事務局第二会議室内に展示ケースが設置され、これまで鹿田・津島両キャンパス内から出土した遺物、あるいは発掘調査終了直後の遺物などを中心とした常設展示を行っている。

(3) 遺物の保存処理

本学内の遺跡からは多数の木製品が良好な保存状態で出土することが多い。資料価値の高いこうした木製品は、出土直後から腐敗・劣化が急速に進む危険性をもつため、一刻も早い恒久的保存処理が必要である。1991年度からようやくそれに向けての具体的計画が可能となり、専門的な外部機関に委託するものと本センターで独自に行うものとに分け、それぞれで処理を行った。

a. 外部委託分

本センターで対応できないと判断されるものを選択している。1991年度・1992年度の2カ年計画で元興寺保存科学研究所に委託し、1992年度末に全てを完了し返却された。処理方法は木製品に応じてPEG含浸法とアルコール・キシレン法とが使い分けられている。

b. 本センターでの保存処理

木製品の種類・材質等の状況や処理方法の検討から、センターにおいても保存処理が可能であると判断されるものについて行った。昨年度に完成したPEG含浸装置を使用して、7月下旬から処理を開始した。PEG濃度は20%から始め、12月までの5ヶ月間は原則として約1ヶ月ごとに濃度を10%あげることとし、12月中旬には60%に達した。その後3月までは発掘調査の

切迫から、そのままの状態が続き、3月中旬に65%濃度をあげた。この段階以後は、溶液の濃度がやや高くなってきたことから、慎重を期して、1ヶ月の濃度上昇を5%に下げることとした。処理に当たっては基準資料を同時につけ込み、切片観察による浸透度の状態や重量変化を確認しつつ行っている。最終的には1993年12月頃に処理を完了する予定である。(山本)

表2 埋蔵文化財調査研究センター収藏遺物概要

所属	種類	地 調 査 名 称	箱 数 (1箱:約30L)						備 考 主 要 時 期 ・ 特 殊 遺 物	文 獻
			総 数	土 器	石器	木器	その他	サンプル		
医病	発掘	鹿田1次調査(外來診療棟)	608	491	6	60	1	50	弥生中期～中・近世 鐵甲狀・棍棒木器等	⑦
"	"	鹿田2次調査(NMR-C T室)	116	90	3	20	銅 鐵 錫 鉛	3	弥生後期～中世、田舟、木簡等	"
医歯	"	鹿田3次調査(校舎)	131	36		90		5	古代～中世	⑧
"	"	鹿田4次調査(配管)	3	2				1	古代、鹿角製品	"
医病	"	鹿田5次調査(管理棟)	119	79	1	20		19	弥生後期～中・近世	⑨
R I	"	鹿田6次調査 (アイソトープ総合センター)	30	29.5	0.5				中世、青銅製鏡	⑩
全	"	津島同大1次調査(NP-1)	4			4			弥生中期～古代	⑪
農	"	津島同大2次調査 合併処理構 排水管	18		1			4	縄文後期～弥生前期	⑫
学生	"	津島同大3次調査(男子学生寮)	71	49	10	2		10	縄文後期～弥生、古代～近世 石製指輪、鰐頭状土器片	⑬
"	"	津島同大4次調査(屋内運動場)	1	1					縄文後期～弥生前期 <試掘調査遺物を含む>	⑭
大自	"	津島同大5次調査 (自然科学研究科棟)	89	55	2			32	縄文後期～弥生、古代～近世 耳杯・木製櫛(縄文)	⑮
T.	"	津島同大6次調査 (生物応用工学科棟)	63	30	1	22		10	縄文後期～近世 人形木器、アンペラ	"
"	"	津島同大7次調査 (情報工学科)	13	7	1			5	縄文後期～近世	"
全	"	津島同大8次調査(遺伝子実験)	14	12.9	0.1			1	縄文後期～近世	⑯
工	"	津島同大9次調査 (生体機能工学)	258	35		3		220	縄文後期～近世	⑰
"	"	津島同大10次調査 (保健管理センター)	3	3					弥生前期～近世	"

所属	種類	地 調 査 名 区 別	箱 数(1箱:約30L)					備 考 主要時期・特殊遺物	文献 番号
			総 数	上 ③	山谷 ④	木立 ⑤	その他 サンプル		
医病	試掘	鹿 田 駐車場	1	1	1	1	1	弥生～中世	⑤
学生教育	〃	津島北 男子学生寮	1	0.7	0.3	1	1	绳文後期～弥生前期	〃
〃	〃	研究棟	1	1	1	1	1	1	1
大白	〃	自然科学研究科棟	1	1	1	1	1	绳文後期～弥生前期	⑥
事 業	試掘	津 島 外国人宿舎(土牛)	1	1	1	1	1	绳文～中世	⑩
理	〃	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	中・近世	〃
教費	〃	津島南 〃	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	绳文・小姓	〃
工	〃	津島北 校舎	1	1	1	1	1	绳文～近世	⑪
農業	〃	津島南 動物・遺伝子実験施設	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	绳文～弥生、中・近世	〃
事 業	試掘	津島南 國際交流会館	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	中世	〃
大白	〃	津島北 合併処理槽	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	中・近世	⑫
学生	〃	津島南 学生合宿所	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	小世	〃
教育	〃	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	绳文	〃
図	〃	図書館	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	古墳～中世	〃
学生	〃	津島南 学生合宿所ボンブ塘	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	绳文～中世	⑬
資生	〃	倉 積 資源生物科学研究所	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	近世	〃
R.I.	〃	鹿 出 アイソトープ総合センター	1	1	1	1	1	中世～近世	〃
事 業	〃	津島北 無利厚生施設	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	弥生?～中世	〃
企 画	立会	'83年度	2	2	2	2	2	分離形土製品	⑪
〃	〃	'84年度	1	1	1	1	1	1	⑫
〃	〃	'85年度	1	1	1	1	1	1	⑬
〃	〃	'86年度	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	⑭
〃	〃	'87年度	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	⑮
企 画	分布	'89年度 二橋・本島	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	1	⑯
企 画	立会	'91年度・'92年度	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	1	⑰
総 箱 数			1357.3	949.2	25.0	221	1	360.2	

※文献番号は附表3、4に対応する。文献⑩は本年報10を指す。

第3章 1992年度活動のまとめ

本年度は稻田幸司センター長以下、助手5名、技術補佐員1名の体制で臨んだ。

発掘調査は、津島地区で2件行った。津島岡大遺跡第9次調査は、第6・7次調査地点に近接した地点で行い、縄文時代後期から中世にいたる成果があった。縄文時代後期の肝藏穴の構造、弥生時代から明治時代に至る耕地区画法の変遷、条里に関わると考えられる大溝とその構造、改修などといった、土地の利用法に関わる成果があり、出土遺物によってそれらの時期を克明に追求できたことは大きな成果であろう。

津島岡大遺跡第10次調査は調査を開始して間もないため、まだ大きな成果はあがっていないが、畠高地の高い部分にあたっており、また、先行トレンチからは多量の弥生土器、土師器が出していることから、多くの遺構の存在が予想され、来年度には大きな成果が期待できる。

立会調査は隨時行い、津島岡大遺跡、鹿田遺跡各地点の土層堆積状況の資料の蓄積ができた。本年度も手続き上のトラブルの防止につとめ、大学構内の工事等に伴う掘削に関する依頼文書を関係各所に配布し、理解と協力を求めた。

室内作業では、鹿田遺跡第5次調査の報告書『施田遺跡3』を刊行することができた。調査地点は、第1次調査地点に隣接する地点で、弥生時代から中世にかけての集落跡の調査報告である。牛の頭骨を出土した井戸は、井戸祭祀を復元するにあたって貴重な資料となろう。また、弥生土器、中世土師器は、編年はもとより土器の生産体制といった、当時の社会の復元に有効な資料である。この他に年報9、センター報8、9号の定期刊行物は從来通り刊行できた。センター報は各編集担当者の創意工夫により、各号でオリジナリティーが發揮され、内容の濃いものとすることができた。整理作業は、主として津島岡大遺跡第5～7次調査の遺物整理等を行った。そして、縄文時代後期土器群などでは、当初の予想を越える資料的価値が明らかになりつつある。

昨年度開始した木器処理は、今年度、順調にPEG溶液の濃度を上げ、今年度末までに65%に達している。

啓蒙活動では、その一環として事務局第1会議室に簡易ながらも展示ケースを設置することができた。現在は発掘調査、室内整理に重点をおいているため、大がかりな啓蒙活動はできていないが、細々ながらもこうした活動を通じて埋蔵文化財に対する理解を求めていく必要がある。

今年度は各職員の連携のもとに、発掘調査と室内整理ともに順調に進めることができた1年であった。

(富樫)

附 表

附表1 1982年度以前の構内主要調査(1980~1982年度)

年度	調査者名	地名	種類	所属	調査名	調査組織	面積(m ²)	文献	備考
1980	鹿田		立会	歯	同附属病院新宮	岡山市教育委員会	8.0		
1981	津島南 BD26		"	農	寄宿舎新宮	"			
	津島北		"	又法延	合併処理埋設	"			
	津島南 BD09 BC09~11		"	基幹整備	(共同購取付)	"			
	津島南 BD~BE04~07		"	陸上競技場改修	(配水管埋設)	"			
	鹿田		"	医病	高気圧治癒室新宮	"			
	"	"	"	動物実験施設新宮	岡山県教育委員会	"			試掘調査をせず塗抹残存壁面等の調査
	"	"	"	病理解剖体験器処理保管庫新宮	岡山市教育委員会	"			
	"	"	"	医	運動場改修	"			
1982	津島 AV06~10 AN05~14 AX08, BD07 BE10		試掘	排水基幹新編	"			津島AW14区で弥生時代包含層確認、盛溝	
	小柄法日黒 津島北 AW14		免掘	広又	排水管集中槽(NP-D)埋設	岡山大学	24.0	③	<津島河大1次調査>
	津島南		試掘	学生	武道館新宮	岡山市教育委員会	2.3		
	津島北 AW15~16		"	法延	校舎新宮	"	7.0		
	鹿田		"	医	標本保存庫新宮	岡山県教育委員会	8.0		
	"	"	"	医病	外来診療棟新宮	岡山市教育委員会	4.0	2	
	"	"	立会	医	動物実験施設閑遊排水管・ガス管埋設	岡山県教育委員会		1	
	鹿田 AE~AN22 AE22~25		"	衛	電話ケーブル埋設	岡山市教育委員会 岡山大学図書文化財調査室			

※文献1 光永真一「岡山人医学部附属病院動物実験施設新設工事に伴う排水管付設工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会

2. 河本 達「岡山大学医学部附属病院外水洗廻旋機改造に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会

③番号は附表3の番号に対応する。

附表2 1991年度以前の構内主要調査(1983~1991年度)

附表2-(1) 発掘調査

年度	調査地名	所属	調査名	期間	面積(m ²)	備考	文献
1983	鹿田 AD~BD28~40	医病	外来診療棟新宮	7.27~11.22 '84.1.9~3.31	2188	弥生時代中期後半~中・近世集落	③ <鹿田1次調査>
	" BG~BI18~21	"	NMR-CT室新宮	8.1~12.30	176	弥生時代後期~中世集落 <鹿田2次調査>	"

附表

年度	調査地名	所属	調査名稱	期間	面積(㎡)	備考	文献
1983	津島南 BE14~18 BF17~18 BG14 BH14~15	農	排水管理設	'81.1.9~3.5	285	縄文時代晚期~弥生時代 前期集落址 <津島岡大2次調査>	④
	" BH13	"	合併処理槽埋設	'81.14~11.22 '84.1.9~3.5	276	" <津島岡大2次調査>	"
1984	鹿田 AU~BD28~40	医病	外来診療接新營	4.1~8.31	2188	弥生時代中期後半~中・近世集落址 <鹿田1次調査>	⑦
1985	" CK~CU27~28 CT~CY19~27 CX~D016~25 DB~DG22~23	医病	校舎新營	6.2~11.29	2390	古代~中世の集落址 <津島岡大3次調査>	⑧
	津島北 AV00, AW00~01	学生	男子学生寮新營	'81.1~'87.3.31	1550	古代~近代の水田址 <津島岡大3次調査>	⑨
1987	津島南 BF~BG09	"	屋内運動場新營	'87.1.19~1.22	70	弥生前中期・中世河道 <津島岡大4次調査>	⑩
	津島北 AV00, AW00~01	"	男子学生寮新營	4.1~6.18 8.24~9.5	1550 80	縄文晚期~弥生の集落址 縄文後期~晩期の河道 <津島岡大3次調査>	⑪
1988	鹿田 BB~Bj35~42	医病	管理棟新營	10.6~'88.3.2 '88.3.23~3.31	1192	弥生中期後半~中・近世の集落址 <鹿田5次調査>	⑫
	" DD~DF25 DG~D127~28	医病	校舎周辺の配管	11.2~11.21	30	古代の河道 <鹿田4次調査>	⑬
1989	津島北 AY06~08 AZ06~07	大	自然科学研究科棟	6.27~'89.3.19	1537	縄文後・晩期の貯蔵穴と 河道 弥生~近世の水田址 <津島岡大5次調査>	⑭
	" AV-AW04~05	工	生物応用工学科棟	9.20~'89.3.31	600	縄文後・晩期の貯蔵穴と 河道 弥生~近世の構と水田址 <津島岡大6次調査>	"
	" AV-AW05~06	"	情報工学科校舎	10.12~ '89.3.31	800	縄文後・晩期集落址 弥生~近世水田址 <津島岡大7次調査>	"
1990	津島北 AV-AW04~05	T.	生物応用工学科棟	4.1~5.31	600	縄文後・晩期の貯蔵穴と 河道 弥生~近世の構と水田址 <津島岡大6次調査>	⑮
1990	津島北 AY-AZ08	大	自然科学研究科棟	4.3~4.21	90	古墳時代後期溝 <津島岡大5次調査>	⑯
	鹿田 BK~CC67~71	R I	アイソトープ総合 センター	11.20~ '91.3.31	690	縄文時代溝・井戸・建物 跡 <鹿田6次調査>	⑰
1991	鹿田 BK~CC67~71	R I	アイソトープ総合 センター (R I)	4.1~6.30	690	縄文時代溝・建物跡・土器 他 弥生~古墳時代溝・土器・土塙 <鹿田6次調査>	⑱
1991	津島南 BD18~19	農	遺伝子実験施設	7.23~12.25	650	弥生時代~近世溝等、縄 文時代上塙・土器・石器 他 <津島岡大8次調査>	"
	津島南 BH13	"	(合併処理槽)	7.23~12.2	140	古代~近世水田 弥生上器・石器他 <津島岡大8次調査>	"

附表2-(2) 試掘調査など

年度	調査地区名	所轄	調査名	開削深度(m)	備考	文献
1983	津島南 BH13	農	合併地埋蔵予定地	2.5	弥生・前期土器片・ <u>(83年度免査)</u>	①
	〃 BE～BG14 BK～BH15 BC18,BP16～18	〃	排水管埋設予定地	2.0	弥生・歌麿土器片・ <u>(83年度免査)</u>	〃
	〃 BK17	〃	排水管中間ポンプ槽予定地	3.5		〃
	〃 BK22-23	〃	貢導高崎新宮予定地	2～3	造成+0.6m、土器片出土・ <u>(1987年度工事立会)</u>	〃
	〃 BC-BD15	事	大学事務局新宮予定地	〃	造成+0.9m、土器片出土	〃
	〃 BB10	学生	保育管理センター新宮予定地	〃	造成+0.8m、調査出	〃
	〃 BI16	事	津島側面新宮予定地	2.0	造成+0.9m、土器片出土・ <u>(1987年度工事立会)</u>	〃
	津島北 AX05	工	校舎新宮予定地	3.0	造成+1.0m、土器片出土	〃
	鹿田 BK30-31	医病	西病棟北側受水槽予定地	1.4	造成+0.5～0.7m 中世土器・包含層確認 (盛土保存)	②
	〃 CT-CU25 CZ19-20-23-24	医病	医療短期大学高校新宮予定地	2.7	造成+0.8～1.0m 中世・古代の遺物出土 (1986年度免査調査)	〃
1984	津島南 BK08	教育	講義棟予定地	3.5	造成+1.2m、遣稿・遺物未確認 (1986年度二事立会)	③
	津島北 AX02	教育	研究棟予定地	2.6～3.4	造成+1.2m 縄文～弥生時代土器出土	〃
	〃 AV-AW09～01	学生	男子学生寮新宮予定地	2～3	造成+1.0m 縄文～小世の遺構・遺物 <1986年度免査調査>	〃
1985	鹿田 AJ33,A140 AJ-AK26	医病	外木浴桟橋埋設工事に 先立ち範囲確認調査	2.2～3	造成+0.9～1.4m 弥生・中世の遺物	〃
	津島南 BP-BQ09	学生	川内運動場新宮予定地	2.4 1.2～1.7	造成+1.1m 弥生・歌麿・中世・河岸段丘出土 (1986年度免査調査)	④
	津島北 AY-AZ07	人	自然科学研究科棟新宮予定地	1.6～3.2	造成+0.6～0.8m 縄文・歌麿・後期の遺構・遺物 <1986年度免査調査>	〃
1986	牛生 AP02	事	外国人宿泊施設予定地	2.2～2.8	近世・弥生・縄文の遺構確認	⑤
	津島北 AV11	皆	情報処理センター新宮予定地	2.0～3.0	造成+1.2m 黒色土・標高2.2m段階後で確認	〃
	〃 AY09	理	身体障害者用×レベーター 連段式予定地	3.0～3.5	造成+約1m 近世・中世の遺物 中世・古代の水田址 <麻績して免査調査に及ぶ>	〃
1987	津島南 BG09	教育	〃	2.5	造成+0.7m 縄文時代土器群を確認 縄文・中世・近世土器出土 <麻績して免査調査に及ぶ>	〃
	津島北 AX04-05,AW04	工	校舎建設予定地	2.0～3.5	黒色土・標高3m前で確認 荷造地盤・水田址検出 縄文・近世土器出土 <1986年度免査調査>	⑥
	津島南 BD18-19	農業	動物実験前育苗施設 及び遺伝子実験施設	2.3	造成+1.1～1.2m 黒色土・標高約2.3mで確認 荷造地盤・縄文～中世遺物検出	〃
1988	津島南 BC29	事	国際交流会館	2.5	造成+約1.2m 近世・小世の遺物出土 <1986年度工事立会>	〃

年度	調査地区名	所属	調査名物	掘削深度(m)	備考	文献
1989	津島北 AZ17	大自	合併駆逐地予定地	4.0	造成土1.6~2m 中世~朝前の水田の駆逐・ sondage <1989年度工事立会>	④
	津島南 BD02	学	学生会館予定地	2.0~3.2	造成土約1m 縄文後期~弥生前期の駆逐 <1989年度工事立会>	〃
	〃 AZ-BA05	教育	身体障害者用エンペータ	2.5	造成土0.8m 縄文時代後~晩春の落込み 縄文時代後期~中世土器片 <小原構造面、面積38.5m ² >	〃
	津島北 AV-AW13	國	図書館新館予定地	3.0	造成土1.4~1.6m 古代水田、弥生~古代の轟	〃
1990	津島南 BD02	学	学生会館所ゾンブ構造予定地	2.5	弥生時代前期駆逐、中世土器片	⑤
	倉敷市K	資生	資源生息科学研究所滋賀認可 会	2.5	中世後半以降土器片	〃
	龜山 BY-3268	R I	アソフト・ブ勤合センター予定 地	2.3	中世土器片 <1989~91年度発掘調査>	〃
	津島南 AW-AX03	市	福利厚生施設予定地	3.9	弥生~古墳時代の轟、中世土器片	〃

附表2-(3) 立会調査

年度	調査地区名	所属	調査名物	掘削深度(m)	備考	文献
1983	東山	教育	附属中学校新校	4~5	シルト層中	①
	龜山 AR-AS38,3C40	医病	外来診療棟及び引込薬科検査機 機保有状況確認調査	2.5~3.0		〃
	津島北 AX15	文	中庭水溜灯地下ケーブル	0.7	造成土中	〃
	豊田 AY23	医病	川中穴診療棟埋設給水管	1.0	〃	〃
	〃 AM32	〃	外来診療棟シールド取行に伴う アスファルト設置	2.0	〃	〃
	〃 AO~AW22	〃	外未診療棟高気配管埋設	1.3	弥生後期土器(分類形土製品) 貝殻層	〃
	津島南 BC~3P18	業	周辺排水用集中槽埋設 水道管埋設	2.5 1.5		〃
	津島北 RA13	事	西門商業改修	2.6		〃
	豊田 BH17~18	医病	混合棟北側ガス管埋設	1.0	造成土中	〃
1984	〃 BG-BH17-18	〃	NMR-C T字新設関係排水施 設取付	0.6~1.5		②
	豊田 RD~RH64	國	旧基礎拠点標中駆逐車橋整備	0.8		〃
	津島北 AW-AX11 AZ-3A12-13	情	通信用管路埋設	0.7~1.4	造成土0.9~1.2m	〃
1984	龜山 AE36	医病	外来診療棟新設柱低電柱架設	1.93	造成土1.25m	〃
	〃 IQ33	〃	中塚北掛橋外久カバリー引張 機器搬入取付	1.6	〃 1.5m	〃

1992年度活動のまとめ

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度 (m)	備考	文献
1984	鹿田 BI21	医病	厨房棟東側埋設ガス管修繕	0.8	造成土上	②
	# BI29	#	真瀬姫宿古墳水道管修繕	2.0	造成+1.15m 中世包含層確認、中世・弥生式土器	#
津島南 BI16	事	青柳勘定課宿泊施設新設	1.6	= 1.0m	#	
	# BI15	#	南宿舎合併越壁構取付	2.0		#
	# BI15~17	#	南宿舎合併越壁構開闢配水管設	1.0~2.2	造成+1.0m 房・土壤検出、須恵器・弥生土器	#
鹿田 BA16~22	医病	外米診療棟関係ガス管引込み工事	1.2~1.4	ほとんど造成上	#	
1985	# AW~BI23 BI~BI24	#	屋外排水管理設	1.3~1.7	造成+0.7~1.3m 中世・弥生の遺構、遺物確認	⑤
	# CB69	#	須瀬学校構内水道ノル取設	1.0	造成土中	#
鹿田 AK~AM43~46 AD~AT42他	医病	基幹環境整備給排水その他工事	1.0	造成土+0.8m、近世土器群り検出	#	
	# AE~AM40 BA40~42	医病	馬幹癪掘施化工事、外米診療棟西	1.1	# # 中世包含層確認	#
	# AG34~36 AL~AS34~39 AU~AS39	# 北	外米診療棟	1.1	# # #	#
	# BA22他	#	基幹環境整備給排水その他工事	1.15	造成土1.0m	#
津島北 AV06~07	工	三次元地盤新設および排水管埋設	1.5~1.7	# 1.0~1.5m、土器断片出土	#	
1986	鹿田 CS~CT19~24 CW~CU12~13 CR14, CL~CW15 CW~CZ16, CH33	医病	樹木移植	0.8~1.5	# 1.0m	⑥
	# BI~BN45	医	排水・污水管改修	0.8~1.3	# 0.8m	#
津島南 BE08~09	教養	校舎新設	2.3	# 1.3m、中・近世土器・溝	#	
鹿田 BV10, CY29 DD29, CK27 CL~CR26~29	医病	# 設備	0.5~1.2	# 0.8~0.9m	#	
津島北 AD04~16~17 AY15	文	樹木移植	1.0~1.6	造成土内	#	
# AV16~17	#	グランド改修	3.5	造成+1.5m	#	
津島南 BG08	学生	ハンドボールコート新設	0.2~2.0	# 0.8m、黒色土確認	#	
津島北 AX16	文	動物実験室新設	0.95	造成土内	#	
鹿田 CL~CR12 CR~CX13 CX~DA14	医病	護岸及び防障工事	2.0	造成土0.8~1.0m、中世包含層	#	
津島南 BH07~08	教養	校舎新設に伴う電気配管	1.8	造成土0.9m、中世包含層	#	
鹿田 BC37	医病	管理棟新設に伴う基礎坑確認	2.5	弥生時代包含層・遺構確認	③	

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度 (m)	備考	文献
1987	津島北 AY99	逓	身体障害者用メンバー設置に伴う污水管改修	1.2 一部1.6	造成+1 m前後	④
	津島 AQ02-03	事	土生駅舎屋外排水管改修	0.7	" 0.6m	"
	津島北 AW01	学生	馬場東給水管修理	2.0	" 0.96m, 畦部分	"
	鹿田 CW14~17	医療	校舎新築 配管	1.3	" 1.16m, 中良木山層	"
	" BC~BG23	リ	" "	1.9	" 1.1m, 濡れ内	"
	" CW16	リ	桜木移植	1.2	" "	"
	" DP24 DG24~26	リ	" "	1.6 3.0	" " 中良木層確認 " " 濡れ内	"
	" D9~DF24 DF23~24	リ	" "	1.38 1.8	" " " " 中良木層確認	"
	津島南 RH22~23	農	農場施設新設その他工事	1.8	" 1.25m	"
	" RG22	リ	合併処理槽	3.6	" 1.2m, 自然流路内	"
	" RF17~21	リ	電気	0.7~1.5	" "	"
	" RF22	リ	給排水	3.0	" 1.3m	"
	鹿田 RA17~21	医療	旧混合病棟北駄輪橋基礎	0.6	造成上内, 幼生十勝山土	"
	" CM~CN30~43 CC~CN45~47	リ	道路排水整備	0.7~1.1	" 深度1.1m地点のみ 造成上0.65m	"
	" CH~C156~57	医	動物実験施設海伊樹脂插削	1.0~1.2	造成上0.8m	"
	" "	リ	配管	0.3~1.0	" "	"
	" CM13~26 CN~C014 CP~C114 CR~CR26~27	医療	脳代謝桜北給水管改修	0.8~0.9	" "	"
1988	津島北 AY11~AZ11	情	情報処理センター通信纜付設	1.2	造成上0.8~0.85m	⑤
	鹿田 AF41,AJ~AN43 AV40	医療	管渠桿新設に伴う電柱架設	1.8	造成上0.6m~1.4m	"
	津島北 AZ06	人	大学院新館に伴う電柱架設	2.3	造成上0.8m	"
	津島南 RH~RG10~11	教養	テニスコート夜間照明施設	2.2 1.4~1.5	造成+1.5m 黒色土を表下約2 mで確認 西に向かう落ちが推定される	"
	" BC26	事	国際交流会館 本体部分	1.0 2.4~2.9	" 1.5m	"
	" RR25~26	リ	電柱架設	1.7~1.9	" 1m, 以下は灰白色粘土	"
	" RR26	リ	国際交流会館合併処理槽	2.2	造成上1.3m	"
	鹿田 AY47	医	玄関付近外灯設置	1.0~1.3	造成上内	"
	津島北 AI09~10	工	機械工学科・精密切削科学科実験棟電気改修	1.4~1.6	造成+1.4m	"

1992年度活動のまとめ

年版	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度 (m)	備考	文献
1989	津島北 AZ09, BA-3309	大日	自然科学研究科棟新設電柱架設	1.8~2.2	造成土約1.0m	◎
	# AZ08	#	工事用道路	1.4	弥生後期水田、近世溝塗山	#
1989	# AJ04-05	工	生物応用工学棟新設 電柱架設	1.5~1.9	# 0.7~1.2m	#
	# AV06	#	情報工学科棟地下部分掘削	6.0	地表-0.5mまで樹根、演習室	#
津島南 BC02			市道試験灌漬工事 学生会館新設	1.2	造成土1.2m	#
	# AV17	大日	合併処理槽 地質調査	2.3	造成土2.0m	#
	# #	#	木本砕分掘削	3.0	<1989年度試掘調査後>	#
	# BD05	学生	体育施設新設	1.4	擾乱内	#
津島北 AX-AY14, BA16	文		樹木移植	1.5	#	#
鹿児 C025-27	技術		旧管理機械地盤整備 樹木移植	0.4~1.3	~近代衣冠屋内	#
鹿児 CJ31~43 CH34~37 OK31~44	#		旧管理機械地盤整備 樹木移植	0.8~1.0	造成土内	#
# CE30-37-44 CJ-C445 CL28-29 CM35-42	#		旧管理機械地盤整備 外管基礎面削	1.2~1.5	造成+0.7~1.0m 中巨層地盤	#
				1.4	擾乱内	#
1990 津島北 AZ-BAG5	教育		エレベーター周辺排水管設置換	0.6~0.8	造成土内	◎
# BI-BH04-05	教育		グラウンドシャンク新設	1.5~1.2	造成土0.9~1.2m、条里名残?	#
津島北 AV04~10			岐阜市造水町津島東縦掘幅に伴う新築工事	0.4~3.0	造成土0.6~1.4m、黒色土層 条里残?	#
# AV-AW04-06	工		生物応用工字樋・情報工学科外構	1.3	造成土~近世層上層	#
# AF-AZ05~08	人自		自然科学研究棟外構工事及び付設工事	0.5~2.5	造成土内~近世層 石斑石材(水路?)	#
鹿児 DI~CS60~80	同		隣属瓦窯組川辺橋橋脚開通樹木移植等	1.2	造成+0.7m	#
				1.2	造成土0.7m	#
# BY~CS60~80	医	R I給水管設置換え	0.6~0.8	剪治層上面	#	
津島南 BC14	#		事務局敷地内鉢木腐修繕	0.3~1.5	造成土0.8m	#
津島北 AV01~03, AT03			岐阜市造水町津島東縦掘幅に伴う新築工事	0.7~1.5	造成土0.7~0.8m 東端で条里の名残?	#
津島北 BA14~16	文 法研		南側川床石積み改修	1.1	造成土内 簡單の土壌カット	#
1991 津島南 BC28	事		外国人宿生会館 グリストラック埋設	2.0	~GJ, 1.4m擾乱土 道跡未確認	#
津島南 BC18	道		防火用水池	2.0	~木盤層、8次調査調査地	#
津島北 AL09~10	工		雨水排水管新設	0.8~1.2	造成土内、渠化	#
津島南 BB04	教育		水道管破裂	1.1	造成土内、渠化	#

年度	調査地名	所属	調査名	掘削深度 (m)	備考	文献
1991	津島南 BC18	事	津島地区基盤配管 整備(電気)	0.7	GL-0.5mで明治層上面	◎
	津島南 BC10 津島南 BT04~07 津島北 AZ13~14 津島北 AW04~05	事	津島地区基礎ハンドホール 整備(電気)	1.1~1.3	~近世層上面	〃
	津島南 BB16	〃	〃 ハンドホール アース板	1.7~1.8	道跡木難路	〃
1991	津島北 BB15	〃	津島地区基礎整備(電気) アース板埋設	1.7	黒色土上面	〃
	津島北 BA12~13	〃	津島地区基礎整備(電気)電柱	0.9	造成土内、地格不規	〃
	鹿田 CT44	医	水道管被覆	0.9	~近世層上面	〃
	津島南 BC18	道	康化子実験施設工事用エレベーター	1.1	造成土内	〃
	津島南 BA18, BC18	〃	遠伝子実験施設電柱 設置開削	0.5~0.9	~明治層	〃
	津島南 BC18	〃	作東用括張器	0.8	~明治層	〃
	津島南 BC18	〃	地下車	4.0~5.0	調査終了面以下、基礎瓦遺物層	〃
	鹿田 BW-BZ45~49	〃	医学部水栓整備 駐車場建設	0.3~1.0	~近世層上面	〃
	鹿田 BK-BX43~54	〃	水銀灯設置	1.0~1.5	GL-1mで近世層上面, -1.3mで 中世層	〃
	津島南 BC-BP22	農場	有機物処理槽	1.1~1.4	造成土内	〃
	津島北 AV-AZ14 AZ13-AX-AY16	文書 林	様内雨虹設置	1.0~1.1	造成土内	〃
	津島南 BC-BE-BF12	事	南北道路街灯設置	1.5	GL-1.4mで古代層確認	〃
	平田山 AI03	高丘鉄塔周辺排水渠敷設	0.4~0.7	GL-0.1mで地山	〃	
	平田山 A009, A012~13	農	自然教育研究林内排水渠	0.4~0.8	GL-0.1~0.2mで地山	〃

※発掘・試掘調査については全てを、立会調査については主要なもののみを対象としている。
文献番号は附表3・4に対応する。

附表3 埋蔵文化財調査室刊行物

番号	名 称	発行年月日
①	岡山大学構内遺跡調査研究年報1 1983年度	1985年2月28日
②	岡山大学構内遺跡調査研究年報2 1984年度	1985年3月30日
③	岡山人字津島地区小橋汎日黒遺跡(AW14区)の発掘調査 岡山人字櫓内遺跡発掘調査報告 第1集	1985年5月7日
④	岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ(農学部構内BII13区他) 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第2冊	1986年3月31日
⑤	岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度	1987年3月31日
⑥	岡山大学構内遺跡調査研究年報4 1986年度	1987年10月31日

附表4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物

番号	名 称	発行年月日
⑦	鹿田遺跡Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第3冊	1988年3月31日
⑧	岡山大学構内遺跡調査研究年報5 1987年度	1988年10月31日
⑨	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第1号	1988年10月
⑩	鹿田遺跡Ⅱ 岡山人字構内遺跡発掘調査報告 第4冊	1990年3月31日
⑪	岡山人字構内遺跡調査研究年報6 1988年度	1989年10月14日
⑫	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第2号	1989年8月
⑬	" 第3号	1990年2月
⑭	岡山大学構内遺跡調査研究年報7 1989年度	1990年11月20日
⑮	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第4号	1990年7月
⑯	" 第5号	1991年3月
⑰	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号	1991年8月
⑱	岡山大学構内遺跡調査研究年報8 1990年度	1991年12月10日
⑲	津島岡大遺跡3 岡山人字構内遺跡発掘調査報告 第5冊	1992年3月31日
⑳	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号	1992年3月
㉑	岡山人字構内遺跡調査研究年報9 1991年度	1992年12月21日
㉒	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号	1992年8月
㉓	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第9号	1993年3月
㉔	鹿田遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第6冊	1993年3月31日

岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定

(設 置)

第1条 岡山大学（以下「本学」という。）に岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）を置く。

(目 的)

第2条 センターは、本学の敷地内の埋蔵文化財について、次の各号に掲げる業務を行い、もって埋蔵文化財の保護をはかることを目的とする。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に関すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成に関すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護に関する重要な事項

(センター長)

第3条 センターにはセンター長を置く。

2 センター長は、専門的知識を有する本学の教授の中から学長が命ずる。

3 センター長は、センターに関する業務を掌理する。

4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(調査研究室)

第4条 センターにセンターの業務を処理するため調査研究室を置く。

2 調査研究室に室長、調査研究員及びその他必要な職員を置く。

3 室長は、専門的知識を有する本学の教官の内から学長が命ずる。

4 室長は、センター長の命を受け、センターの業務を処理する。

5 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

6 調査研究員及びその他の職員は、上司の命を受け、センターの業務に従事する。

(調査研究専門委員)

第5条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るため、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。

2 専門委員は、本学の教官の内から学長が命ずる。

3 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(管理委員会)

第6条 本学に、センターの管理運営の基本方針を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。

2 管理委員会に関する規定は、別に定める。

(運営委員会)

第7条 センターに、センターの運営に関する具体的な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規定は、別に定める。

(事 務)

第8条 センターの事務は、施設部企画課において処理する。

(雑 則)

第9条 この規定に定めるもののほか、センターに関して必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

1 この規定は、昭和62年11月26日から施行する。

2 この規定施行後最初に任命されるセンター長、室長及び専門委員の任期は、第3条第4項、第4条第5項及び第5条第3項の規定にかかわらず、昭和64年3月31日までとする。

○設定理由

岡山大学の敷地内の埋蔵文化財の発掘調査などの業務を行い、もって埋蔵文化財の保護を図るために、学内施設として、新たに岡山大学埋蔵文化財調査研究センターを設置すること及びその組織等必要な事項について定めるため。

2 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規定

(趣旨)

第1条 この規定は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定（昭和62年岡山大学規定第48号）第6条第2項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）に關し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 管理委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針その他重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 管理委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 学長
- 二 各学部及び教養部長
- 三 自然科学研究科長
- 四 資源生物研究所所長
- 五 附属図書館長
- 六 各附属病院長
- 七 地球内部研究センター長
- 八 学生部長
- 九 医療技術短期人学部上事
- 十 事務局長
- 十一 埋蔵文化財調査研究センター長

(委員長)

第4条 管理委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、管理委員会を召集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(幹事)

第6条 管理委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(庶務)

第7条 管理委員会の庶務は、施設企画課において処理する。

附 則

この規定は、昭和62年11月26日から施行する。

○規定舞由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針等を審議するためにおく岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会に關し、必要な事項を定めるため。

3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規定

(趣旨)

第1条 この規定は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定（昭和62年岡山大学規定第48号）第7条第2項に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に關し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する具体的な事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の号に掲げる委員で組織する。

- 一 埋蔵文化財調査研究センター長（以下「センター長」という。）
- 二 本学の教授のうちから学長が命じた者若十名
- 三 センターの調査研究専門委員から学長が命じた者一人
- 四 センターの調査研究室長
- 五 施設部長

2 前項第2号の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

- 第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
- 2 委員長は、運営委員会を召集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

- 第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
- (庶務)

- 第6条 運営委員会の庶務は、施設部企画課において処理する。

附 則

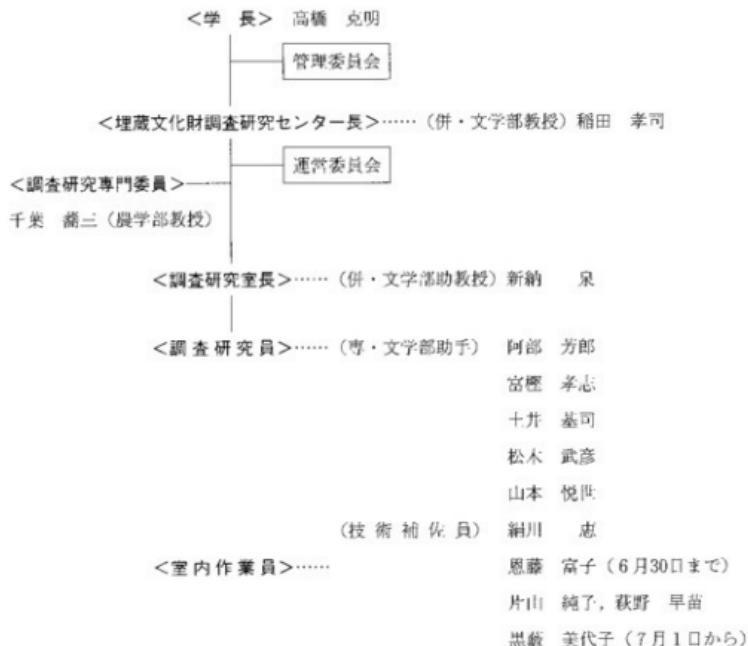
- 1 この規定は、昭和62年11月26日から施行する。
- 2 この規定施行後最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、昭和64年3月31日までとする。

○規定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの運営に関する具体的な事項を審議するためにおく岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会に関し、必要な事項を定めるため。

1992年度埋蔵文化財調査研究センター組織

1 センター組織一覧



2 管理委員会

委員

学長	高橋 克明	教養部長	脇本 和昌
文学部長	好並 隆司	自然科学研究科長	富永 久雄
教育学部長	伊澤 秀而	資源生物科学研究所長	兼久 勝大
法学部長	江口 三角	附属図書館長	萬成 黙
経済学部長	神立 春樹	医学部附属病院長	松尾 信彦
理学部長	山口 恒夫	歯学部附属病院長	松村 智宏
医学部長	木村 郁郎	地殻内部研究センター長	松井 義人
衛生学部長	中後 忠夫	医療技術短期大学部長	喜多嶋康一

薬学部長	田坂 賢二	学生部長	長嶋 金造
工学部長	河野伊一郎	事務局長	大谷 利治
農学部長	河津 一儀	埋蔵文化財調査研究センター長	稻田 孝司
幹 事			
庶務部長	田中 武雄	経理部長	山口健太郎
施設部長	北原 實		

審議事項

1992年5月26日 1991年度埋蔵文化財調査研究センター決算について

1992年度埋蔵文化財調査研究センター予算について

3 運営委員会**委 員**

文学部教授	稻田 孝司（センター長）	農学部教授	千葉 義三（調査研究専門委員）
文学部教授	翁野 久	教養部教授	定兼 範明
教育学部教授	高重 進	文学部助教授	新納 泉（調査研究室長）
工学部教授	本田 和男	施設部長	北原 實

審議事項

1992年5月6日 1991年度埋蔵文化財調査研究センター決算について

1991年度埋蔵文化財調査研究センターの事業報告

1992年度埋蔵文化財調査研究センター予算案について

1992年度事業計画について

埋蔵文化財調査研究センターに関する点検及び、評価について

1993年1月20日 埋蔵文化財調査研究センター規定の一部改正案について

埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規定案について

工学部生体機能応用工学科棟建設予定地の発掘調査の進行について

保健管理センター建設地の発掘調査について

附 編

津島岡大遺跡、鹿田遺跡出土の木製品、木材化石の樹種同定（再録）

津島岡大遺跡では縄文時代後期の木材化石、堅櫛、平安時代の杁、鹿田遺跡では弥生時代の短甲狀木製品、古代～中世の木箋、曲物、横櫛など様々な木製品、木材化石が出土している。

当センターでは鹿田遺跡第1・2次調査で出土した木製品の報告に際して、当時岡山大学農学部教授の畔柳鉄氏に、樹種の肉眼同定をしていただいた。また、同遺跡第3・4次調査の報告に際して、農林水産省森林総合研究所木材利用部の能城修一氏に、それまでに蓄積された構内遺跡出土の木製品、木材化石（津島岡大遺跡第3、5、6次調査、鹿田遺跡第1～5次調査）の樹種を、顕微鏡同定から木材解剖学的に総合的分析していただく機会を得た。今回、これまでの構内遺跡出土の木製品等の樹種同定結果を今後の調査、研究に活用する目的で、総合的に分析している文献1・2の中の表を再録することとなった。

今回再録したのは次の文献1、2である。なお、表は若干組み替えさせていただいた。

文献1：能城修一「岡山大学津島地区から出土した木材化石の樹種」『津島岡大遺跡3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
1992年

文献2：能城修一「岡山大学鹿田地区から出土した木製品の樹種」『鹿田遺跡3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1993年
また、個々の木器、木製品は次の文献で報告されている。

文献3：吉留秀敏、山本悦世編『鹿田遺跡I』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1988年

文献4：山本悦世編『鹿田遺跡II』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第4冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1990年

文献5：山本悦世編『津島岡大遺跡3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1992年

文献6：松木武彦編『鹿田遺跡3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1993年

なお、この文献番号は附表5・6の文献番号にも対応している。

（宮澤）

附表5 津島岡大遺跡から出土した木製品、木材化石の樹種

調査	製品名	出土遺構	番号	時 代	樹 種 名	木 取り	標本番号	製 品 備 考	文献
3次	曲物底板	SD04	W 1	平安前半	ヒノキ	斜め	OTS-12		1, 5
3次	杭	SD04	W 2	平安前半	クヌギ節	半削	OKUF-46	直徑 8 cm	1, 5
3次	杭	SD04	W 2	平安前半	アカガシ亞属	丸木	OKUF-46	直徑 4 cm	1, 5
3次	杭	SD04	W 2	平安前半	クヌギ節	丸木	OKUF-46	直徑 3 cm	1, 5
3次	板目板	SD04	W 2	平安前半	スギ	斜め	OKUF-46		1, 5
3次	杭	SD04	杭 4	平安前半	ヒノキ	みかん割	OKUF-46		1
3次	杭	SD04	杭 4	平安前半	ヒノキ	剖析	OKUF-46		1
3次	杭	SD04	杭 4	平安前半	ヒノキ	丸木	OKUF-46		1
3次	杭	SD04	杭 4	平安前半	ヒノキ	削材	OKUF-46		1
3次	杭	SD04	杭 4	平安前半	モミ属	丸木皮付き	OKUF-46		1
3次	杭	SD04	杭 4	平安前半	モミ属	丸木	OKUF-47		1
3次	自然木	河道		繩文後期	ムクノキ		OTS-18	幅22cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ムクロジ		OTS-18	径16cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ヤマグワ		OKUF-44	直徑 3 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	イヌガヤ		OKUF-44	直徑 4 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	エノキ属		OKUF-44	直徑 5 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	イヌガヤ		OKUF-44	直徑 1.5cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ヤマグワ		OKUF-44	直徑 4 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ムクノキ		OKUF-44	幅19cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	スルヂ		OKUF-45	直徑 2 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ヨコグサノキ		OKUF-45	直徑 6 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ムクロジ		OKUF-45	幅10cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ムクロジ		OKUF-45	平行 6 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	エノキ属		OKUF-45	直徑 4 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ムクノキ		OKUF-45	幅12cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-45	直徑 6 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ムクロジ		OKUF-45	直徑 6 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	クリ		OKUF-45	直徑 5 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-45	直徑 7 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ツルマサキ		OKUF-46	直徑 2.5cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	カエデ属		OKUF-47	直徑 11cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-47	直徑 3 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ヤマグクラ		OKUF-47	直徑 12cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	カエデ属		OKUF-47	直徑 9 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	イヌガヤ		OKUF-47	直徑 1.5cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	カエデ属		OKUF-47	平行 5 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-47	直徑 21cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-47	平行 11cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ムクロジ		OKUF-48	直徑 11cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-48	直徑 12cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-48	平行 12cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-48		1
3次	自然木	河道		繩文後期	エノキ属		OKUF-48	直徑 4.5cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ムクロジ		OKUF-48	直徑 13cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-48	直徑 26cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-48	平行 11cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	ヤマグクラ		OKUF-48	半徑 6.5cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-48	半徑 13cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	カエデ属		OKUF-48	直徑 5 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-49	半徑 11cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	イヌガヤ		OKUF-49	直徑 4 cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	複離管束亞属		OKUF-49	直徑 6.5cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	複離管束亞属		OKUF-49	幅 6.5cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	エノキ属		OKUF-49	幅 0.7cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	エノキ属		OKUF-49	直徑 1.5cm	1
3次	自然木	河道		繩文後期	コナラ属		OKUF-49	直徑 2.5cm	1

調査	製品名	出土遺構	番号	時 代	樹 種 名	木 取り	標本番号	製 品 備 考	文 献
3次	自然木	河道		縄文後期	アカガシ単属		OKUF-49	直径 3cm	1
3次	自然木	河道		縄文後期	イスガヤ		OKUF-49	直径 2cm	1
3次	自然木	河道		縄文後期	コナラ属		OKUF-49	直径 6.5cm	1
3次	自然木	河道		縄文後期	ダイカカズラ		OKUF-50	直径 1cm	1
3次	自然木	河道		縄文後期	コナラ属		OKUF-50	直径 7.5cm	1
3次	自然木	河道		縄文後期	アカガシ属		OKUF-50	直径 4.5cm	1
5次	廢構	貯蔵穴	W 1	縄文後期	イノキ属		OTS-12	赤漆	1, 5
5次	自然木	河道		縄文後期	エノキ属		OKUF-50	幅 5cm	1
5次	自然木	河道		縄文後期	イスガヤ		OKUF-50	直徑 2cm	1
5次	自然木	河道		縄文後期	イスガヤ		OKUF-50	直徑 2.5cm	1
5次	自然木	河道		縄文後期	イノキ属		OKUF-50	直徑 2.5cm	1
5次	自然木	河道		縄文後期	ニノキ属		OKUF-50	直徑 3.5cm	1
5次	自然木	河道		縄文後期	コナラ節松材		OKUF-50	直徑 4cm	1
6次	杭	古代溝	56	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-34		1
6次	杭	古代溝	57	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-34		1
6次	杭	古代溝	58	平安中頃	複縦管束糸属	丸木	OKUF-34		1
6次	杭	古代溝	60	平安中頃	複縦管束糸属	丸木	OKUF-34		1
6次	杭	古代溝	61	平安中頃	複縦管束糸属	丸木	OKUF-34		1
6次	杭	古代溝	62	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-34		1
6次	杭	古代溝	63	平安中頃	アカガシ属	丸木皮剥き	OKUF-34		1
6次	杭	古代溝	64	平安中頃	複縦管束糸属	丸木皮剥き	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	66	平安中頃	アカガシ属	丸木皮剥き	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	67	平安中頃	複縦管束糸属	丸木	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	68	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	69	平安中頃	アカマツ	丸木皮剥き	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	70	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	72	平安中頃	アカマツ	丸木皮剥き	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	73	平安中頃	アカマツ	丸木皮剥き	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	44	平安中頃	セカオ	丸木	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	49	平安中頃	複縦管束糸属	丸木	OKUF-35		1
6次	杭	古代溝	50	平安中頃	カキノキ属	削材	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	74	平安中頃	ユズリハ属	丸木	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	75	平安中頃	アカガシ単属	丸木皮剥き	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	76	平安中頃	アカガシ属	丸木皮剥き	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	77	平安中頃	アカガシ属	半削	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	78	平安中頃	ユズリハ属	丸木皮剥き	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	79	平安中頃	アカガシ単属	丸木皮剥き	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	80	平安中頃	カキノキ属	丸木皮剥き	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	82	平安中頃	アカマツ	丸木皮剥き	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	83	平安中頃	アカマツ	丸木皮剥き	OKUF-36		1
6次	杭	古代溝	84	平安中頃	アカマツ	削材	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	85	平安中頃	モミ属	丸木皮剥き	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	86	平安中頃	アカマツ	削材	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	87	平安中頃	アカマツ	削材	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	88	平安中頃	アカマツ	削材	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	89	平安中頃	アカマツ	丸木皮剥き	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	90	平安中頃	カキノキ属	丸木皮剥き	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	92	平安中頃	ヒノキ	丸木皮剥き	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	94	平安中頃	ヒノキ	削材	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	96	平安中頃	ヒノキ	削材	OKUF-37		1
6次	杭	古代溝	1	平安中頃	複縦管束糸属	丸木	OKUF-38		1
6次	杭	古代溝	2	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-38		1
6次	杭	古代溝	3	平安中頃	複縦管束糸属	丸木	OKUF-38		1
6次	杭	古代溝	5	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-38		1
6次	杭	古代溝	7	平安中頃	複縦管束糸属	丸木	OKUF-38		1
6次	杭	古代溝	8	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-38		1
6次	杭	古代溝	9	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-38		1

調査	製品名	出土遺構	番号	時代	樹種名	木取り	標本番号	製品備考	文献
6次	杭	古代溝	10	平安中頃	クスギ節	丸木	OKUF-38		1
6次	杭	古代溝	11	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-38		1
6次	杭	古代溝	12	平安中頃	セミ属	削材	OKUF-38		1
6次	杭	古代溝	13	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	14	平安中頃	セミ属	丸木	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	15	平安中頃	アカガシ亞属	削材	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	16	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	17	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	22	平安中頃	クスギ節	丸木	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	23	平安中頃	クスギ節	丸木	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	24	平安中頃	クスギ節	丸木	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	26	平安中頃	コナラ節	丸木	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	27	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-39		1
6次	杭	古代溝	28	平安中頃	コナラ節	丸木	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	29	平安中頃	クスギ節	丸木	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	30	平安中頃	クスギ節	丸木皮付き	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	31	平安中頃	アカマツ	丸木皮付き	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	34	平安中頃	クスギ節	削材	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	35	平安中頃	クスギ節	丸木	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	36	平安中頃	コナラ節	丸木	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	38	平安中頃	クスギ節	丸木	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	A01	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	A02	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-40		1
6次	杭	古代溝	A03	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A04	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A05	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A06	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A07	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A08	平安中頃	アカマツ	丸木皮付き	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A09	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A10	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A11	平安中頃	アカマツ	丸木皮付き	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A12	平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-41		1
6次	杭	古代溝	A13	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-42		1
6次	杭	古代溝	A14	平安中頃	アカガシ亞属	丸木	OKUF-42		1
6次	杭	古代溝	A15	平安中頃	ソガ属	板目	OKUF-42	板目？	1
6次	杭	古代溝	A16	平安中頃	アカガシ亞属	みかん割	OKUF-42		1
6次	杭	古代溝	A17	平安中頃	アカガシ亞属	みかん割	OKUF-42		1
6次	杭	古代溝	A18	平安中頃	アカガシ亞属	みかん割	OKUF-42		1
6次	杭	古代溝	A19	平安中頃	クリ	みかん割	OKUF-42		1
6次	杭	古代溝	A20	平安中頃	モチノキ属	削材	OKUF-42		1
6次	杭	古代溝	A21	平安中頃	アカマツ	削材	OKUF-42		1
6次	柱	古代溝	A22	平安中頃	アカガシ亞属	柱目	OKUF-42		1
6次	杭	古代溝	A23	平安中頃	アカマツ	丸木皮付き	OKUF-43		1
6次	杭	古代溝	A24	平安中頃	×	丸木	OKUF-43		1
6次	杭	古代溝	A25	平安中頃	モチノキ属	丸木	OKUF-43		1
6次	杭	古代溝	A26	平安中頃	モチノキ属	みかん割	OKUF-43		1
6次	杭	古代溝	A27	平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-43		1
6次	杭	古代溝	A28	平安中頃	アカガシ亞属	柱目	OKUF-43	板目？	1
6次	杭	古代溝	A29	平安中頃	ヒノキ	みかん割	OKUF-43		1
6次	杭	古代溝	A30	平安中頃	セミ属	丸木	OKUF-43		1
6次	杭	古代溝	A31	平安中頃	セミ属	削材	OKUF-43		1
6次	杭	古代溝	A32	平安中頃	復縦管束亞属	削材	OKUF-43		1
6次	杭	古代溝	A33	平安中頃	アカマツ	平割	OKUF-44		1
6次	杭	古代溝	A34	平安中頃	コナラ属	丸木	OKUF-44		1
6次	杭	古代溝	A35	平安中頃	ヤナギ属	丸木	OKUF-44		1
6次	杭	古代溝		平安中頃	復縦管束亞属	丸木	OKUF-44		1

調査	製品名	出土遺構	番号	時代	樹種名	木取り	標本番号	製品備考	文献
6次	人形	古代溝	W1	平安中頃	モミ属	板目	OTS-12		1
6次	加工木	古代溝		平安中頃	ブナ属	削材	OKUF-33		1
6次	加工木	古代溝		平安中頃	モミ属	板目	OKUF-33		1
6次	加工木	古代溝		平安中頃	サカキ	丸木皮付き	OKUF-33		1
6次	加工木	古代溝		平安中頃	モミ属	削出し	OKUF-33	把手?	1
6次	板材?	古代溝		平安中頃	ヒノキ	組め	OKUF-33		1
6次	檜片	古代溝		平安中頃	アカマツ		OKUF-33		1
6次	枕	古代溝		平安中頃	ムギリハ属	丸木	OKUF-33		1
6次	枕	古代溝		平安中頃	クヌギ節	丸木	OKUF-33		1
6次	枕	古代溝		平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-34		1
6次	枕	古代溝		平安中頃	アカマツ	丸木	OKUF-34		1
6次	枕	古代溝		平安中頃	アカガシ亞属	みかん割	OKUF-34		1

附表6 鹿田遺跡から出土した木製品の樹種

調査	製品名	出土遺構	番号	時代	樹種名	木取り	標本番号	製品備考	文献
1次	軒柱	井戸15	W19	古墳初期	カエデ属		OSK3-125	黒漆	2, 3
1次	曲物底板	井戸30	W53	鐵合	ヒノキ	組め	OSK3-126		2, 3
1次	火り棒	井戸28	W51	平安末	クヌギ節	丸木	OSK3-127		2, 3
1次	浮き	井戸24	W46	平安末	ヒワトコ		OSK3-128		2, 3
1次	曲物?	井戸24		平安末	モミ属	板目	OSK3-129		2
1次	浮子木製品	井戸24		平安末	ニソトコ		OSK3-130		2
1次	浮子	井戸2	W5	弥生後期	×	樹皮	OSK3-131		2, 3
1次	浮子	井戸2	W4	弥生後期	ヤマグワ		OSK3-132		2, 3
1次	加工木	井戸7	W8	弥生後期	サカキ	丸木	OSK3-133		2, 3
1次	組合木製品	井戸7	W6	弥生後期	複数管束東亞属	芯持も角材	OSK3-134		2, 3
1次	組合木製品	井戸7	W7	弥生後期	複数管束東亞属		OSK3-135		2, 3
1次	組合木製品	井戸7	W7	弥生後期	複数管束東亞属		OSK3-136		2
1次	施木木製品	井戸17	W20	古墳初期	スダジイ	削りだし	OSK3-137		2, 3
1次	有頭櫛	井戸15	W15	古墳初期	ヒサカキ	丸木皮付き	OSK3-138		2, 3
1次	達美材	井戸15	W17	古墳初期	ヒノキ	板目	OSK3-139	はぞ穴	2, 3
1次	達美材	井戸15	W16	古墳初期	モミ属		OSK3-140	はぞ穴	2, 3
1次	板	井戸15	W18	古墳初期	ヒノキ	組め	OSK3-141		2, 3
1次	加工木	井戸26		平安末	コナラ節		OSK3-142		2
1次	曲物底板	井戸22		平安末	ヒノキ	板目	OSK3-143		2
1次	井戸仲	井戸20	W30	平安	スギ		OSK3-153		2, 3
1次	火り棒	井戸20	W37	平安	カナメモチ	丸木	OSK3-162		2, 3
1次	火り棒	井戸20	W38	平安	カナメモチ	丸木	OSK3-163		2, 3
1次	火り棒	井戸20	W36	平安	カナメモチ	丸木	OSK3-164		2, 3
1次	火り棒	井戸20	W35	平安	シキミ	丸木	OSK3-165		2, 3
1次	すりこぎ	井戸21	W12	平安末	アカガシ亞属	丸木	OSK3-166		2, 3
1次	加工木	井戸1	W1	弥生中期	タロセジ属	丸木皮付き	OSK3-167		2, 3
1次	きぬた	井戸12	W11	弥生-古初	アカガシ亞属	削りだし	OSK3-168		2, 3
1次	柄	井戸8	W10	弥生後期	ヤマグワ	研目	OSK3-171		2, 3
1次	櫛又は劍形	井戸17	W21	古墳初期	ヒノキ	削りだし	OSK3-172		2, 3
1次	井戸仲	井戸2	W3	弥生後期	モミ属	丸木削抜き	OSK3-173		2, 3
1次	井戸仲	井戸21		平安末	スギ	板目	OSK3-174		2
1次	井戸仲	井戸21		平安末	スギ	はぞ穴角材	OSK3-175		2
1次	曲物底板	井戸20	W29	平安	ヒノキ	板目	OKUF-184		2, 3
1次	曲物底板	井戸20	W26	平安	ヒノキ	板目	OKUF-185		2, 3
1次	曲物底板	井戸20	W25	平安	ヒノキ	板目	OKUF-186	黒漆?	2, 3
1次	柵串	井戸20	W32	平安	ヒノキ	板目	OKUF-187		2, 3
1次	柵串	井戸20	W34	平安	ヒノキ	板目	OKUF-188		2, 3
1次	柵串	井戸20	W33	平安	ヒノキ	板目	OKUF-189		2, 3
1次	柵串	井戸20	W22-23	平安	イスノキ		OKUF-190		2, 3
1次	刀子状木器	井戸20	W31	平安	ヒノキ	板目	OKUF-191		2, 3
1次	杭	井戸20		平安	ヒノキ	丸木削抜き	OKUF-192		2

調査	製品名	出土遺構	番号	時代	樹種名	木取り	標本番号 ¹	製品備考	文献
1次	杭	井戸20		平安	ヒノキ	割材	OKUF-193		2
1次	曲物底板	井戸20	W24	平安	ヒノキ	斜め	OKUF-194	片面墨塗?	2, 3
1次	曲物底板	井戸20	W27	平安	ヒノキ	板目	OKUF-195	片面墨塗	2, 3
1次	曲物の木釦	井戸20	W27	平安	ヒノキ	板目	OKUF-196	OKUF-195釦	2, 3
1次	曲物底板	井戸20	W30	平安	ヒノキ	板目	OKUF-197		2, 3
1次	曲物底板	井戸20	W28	平安	ヒノキ	板目	OKUF-198		2, 3
1次	曲物底板	井戸20		平安	ヒノキ	斜め	OKUF-199		2
1次	加工木	井戸21		平安木	ヒノキ	板目	OKUF-200		2
1次	加工木	井戸21		平安木	クスガヤ	板目	OKUF-201		2
1次	曲物底板	井戸21	W40	平安木	ヒノキ	板目	OKUF-202		2, 3
1次	曲物底板	井戸21	W41	平安木	ヒノキ	板目	OKUF-203		2, 3
1次	加工木	井戸20	W32	平安末	スギ	板目	OKUF-204		2, 3
1次	杭	井戸30		鎌倉	ヒノキ	割材	OKUF-205		2
1次	曲物底板	井戸30	W53	鎌倉	ヒノキ	板目	OKUF-206		2, 3
1次	曲物底板	井戸28	W50	平安末—鎌初	ヒノキ	板目	OKUF-207		2, 3
1次	桟	井戸28		平安末—鎌初	クマノミミズキ類	丸木	OKUF-208		2
1次	杭	井戸28		平安末—鎌初	コナラ類	丸木度付き	OKUF-209		2
1次	桟	井戸28		平安末—鎌初?	コナラ類	丸木	OKUF-210		2
1次	自然木	井戸28		平安末—鎌初?	フジR	丸木	OKUF-211		2
1次	曲物底板	井戸29	W52	鎌倉	ヒノキ	板目	OKUF-212		2, 3
1次	曲物底板	井戸23	W43	平安末—鎌初	ヒノキ	板目	OKUF-213		2, 3
1次	扇子の骨	井戸21	W45	平安	スギ	板目	OKUF-214		2, 3
1次	扇子の骨	井戸24	W45	平安	スギ	板目	OKUF-215		2, 3
1次	×						OKUF-216		
1次	×						OKUF-217		
1次	×						OKUF-218		
1次	加工木	井戸16		古墳初期	モモ	丸木度付き	OKUF-219	春一夏	2
1次	加工木	井戸16		古墳初期	クロマツ	丸木度付き	OKUF-220		2
1次	組合木製品	井戸13	W12	(秀木) 占初	アカガシ垂葉	板目	OKUF-221	板	2, 3
1次	組合木製品	井戸13	W12	(秀木) 占初	アカガシ垂葉	板目	OKUF-222	板	2, 3
1次	組合木製品	井戸13	W12	(秀木) 占初	アカガシ垂葉	板目	OKUF-223	角材。ほぞ穴	2, 3
1次	組合木製品	井戸13	W12	(秀木) 古初	アカガシ垂葉	板目	OKUF-224	角材。ほぞ穴	2, 3
1次	組合木製品	井戸13	W12	(秀木) 古初	アカガシ垂葉	板目	OKUF-225	頭	2, 3
1次	角枕	井戸13	W13	(秀木) 古初	アカガシ垂葉	柄材	OKUF-226		2
1次	削りだし棒	井戸13	W14	(秀木) 古初	アカガシ垂葉	OKUF-227		2, 3	
1次	曲物底板	井戸26	W48	平安末(初頭)	ヒノキ	板目	OKUF-228	内面墨塗	2, 3
1次	曲物底板	井戸26	W48	平安末(初頭)	ヒノキ	斜め	OKUF-229		2
1次	板	井戸26		平安末(初頭)	モミ属	板目	OKUF-230		2
1次	加工木	井戸10		弥生後期	スダジイ	丸木度付き	OKUF-231		2, 3
1次	櫛	井戸27	W49	平安末—鎌初	カナメモチ	板目	OKUF-232		2, 3
1次	枕状木製品	井戸1	W2	井牛中期	複雜管束型尾	丸木	OKUF-233		2, 3
1次	角材片	井戸1		井牛中期	コウヤマキ	OKUF-234		2	
1次	杭	井戸12		弥生末—古初	ヤツツバキ	丸木度付き	OKUF-235		2
1次	板状板材	井戸17		古墳初期	スギ	板目	OKUF-236		2
1次	櫛先	井戸8	W9	弥生後期	アカガシ垂葉	板目	OKUF-237		2, 3
1次	加工木	井戸8		弥生後期	アカガシ垂葉	丸木	OKUF-238		2
1次	櫛先?	井戸15		古墳初期	クスガヤ	板目	OKUF-239		2
1次	木端	井戸15		古墳初期	クスガヤ	割材	OKUF-240		2, 3
1次	先端尖り棒	井戸55	W1	平安末	ヒノキ	割材	OKUF-241		2, 3
1次	曲物底板	井戸20	W24	平安	ヒノキ	板目	OKUF-242	板目板	2
1次	井戸棒	井戸21		平安末	スギ	板目	OKUF-243	割材	2
1次	曲物底板	井戸29		鎌倉	ヒノキ	板目	OKUF-244		2
1次	井戸棒	井戸21		平安末	モミ属	板目	OKUF-245	OKUF-243棒	2, 3
1次	曲物の木釦	井戸29	W52	鎌倉	ヒノキ	板目	OKUF-246		2
1次	井戸棒	井戸21		平安末	モミ属	板目	OKUF-247		2
1次	井戸棒	井戸21		平安末	スギ	割材	OKUF-248		2
1次	井戸棒	井戸21		平安末	スギ	割材	OKUF-249		2

調査	製品名	出土遺構	番号	時代	樹種名	木取り	標本番号	製品備考	文献
1次	柱根	AW29, P21		律倉	ヒノキ	丸木	OKU-250		2
2次	曲物底板	井戸 5		錦倉	ヒノキ	板目	OSK3-144		2
2次	浮子状製品	井戸 5	W20		センダン		OSK3-145		2, 3
2次	木籠	井戸 4	W12	平安	ヒノキ	板目	OSK3-146		2, 3
2次	木輪	井戸 4	W13	平安	ヒノキ	板目	OSK3-147		2, 3
2次	盃串	井戸 4	W17	平安	ヒノキ	板目	OSK3-148		2, 3
2次	尖り棒	井戸 4	W18	平安	タヌギ節	丸木	OSK3-149		2, 3
2次	有環桿	井戸 1	W1	弥生後期	単子葉植物		OSK3-150		2, 3
2次	田舟	井戸 1	W10	弥生後期	クリ		OSK3-151		2, 3
2次	有溝桿	井戸 1	W8	弥生後期	アカガシ亞属	板目板	OSK3-152		2, 3
2次	杭	井戸 4	W19	平安	モミ属	角材	OSK3-154		2, 3
2次	横櫛の箆	井戸 4		平安	イヌキ		OSK3-155		2
2次	盃串	井戸 4	W15	平安	ヒノキ	柱目	OSK1-189		2, 3
2次	有孔板	井戸 1	W9	弥生後期	クスノキ	板目	OSK1-170		2, 3
2次	横櫛	井戸 4	W14	平安	イヌキ	板目	OKU-317		2, 3
2次	盃串	井戸 4	W16	平安	ヒノキ	板目	OKU-318		2, 3
2次	板材	井戸 4		平安	シキミ	柱目	OKU-319		2
2次	加工木	井戸 4		平安	タヌギ節	板目	OKU-320		2
2次	柱目薄板	井戸 4		平安	ヒノキ	板目	OKU-321		2
2次	柱口薄板	井戸 4		平安	ヒノキ	柱目	OKU-322		2
2次	柱口薄板	井戸 4		平安	ヒノキ	柱目	OKU-323		2
2次	柱目薄板	井戸 4		平安	ヒノキ	柱目	OKU-324		2
2次	有孔板	井戸 1	W9	弥生後期	タヌギ節	板目	OKU-325	原	2, 3
2次	組合せ部材	井戸 1	W3	弥生後期	タヌギ節	板目	OKU-326	把手部	2, 3
2次	組合せ部材	井戸 1	W3	弥生後期	タヌギ節	板目	OKU-327		2, 3
2次	組合せ部材	井戸 1	W4	弥生後期	タヌギ節	削材	OKU-328		2, 3
2次	組合せ部材	井戸 1	W5	弥生後期	タヌギ節	削材	OKU-329		2, 3
2次	加工木	井戸 1	W6	弥生後期	アカガシ亞属	削りだし	OKU-330		2, 3
2次	加工木	井戸 1	W7	弥生後期	アカガシ亞属	削りだし	OKU-331		2, 3
3次	杭	杭1群		平安	センダン	丸木	OSK3-1		2
3次	杭	杭1群		平安	メグミ	丸木	OSK3-2		2
3次	杭	杭2群		平安	フブライ	ミカン湖	OSK3-3		2
3次	杭	杭3群	W7	平安	スダジイ	丸木	OSK3-4		2, 4
3次	杭	杭3群		平安	コナラ節	丸木皮付	OSK3-5		2
3次	杭	杭3群		平安	カゴノキ	丸木皮付	OSK3-6		2
3次	杭	杭4群	W11	平安	フブライ	角材	OSK3-7		2, 4
3次	杭	杭6群	W9	平安	ヒサカヤ	丸木皮付	OSK3-8		2, 4
3次	杭	杭6群	W16	平安	クロマツ	丸木	OSK3-9		2, 4
3次	杭	杭6群		平安	アカマツ	丸木	OSK3-10		2
3次	杭	杭6群		平安	アカマツ	丸木	OSK3-11		2
3次	杭	杭6群		平安	アカマツ	丸木	OSK3-12		2
3次	杭	杭6群		平安	アカガシ亞属	ミカン湖	OSK3-13		2
3次	杭	杭6群		平安	クスギ節	削材	OSK3-14		2
3次	杭	杭6群		平安	エゾノキ属	丸木皮付	OSK3-15		2
3次	杭	杭6群	W8	平安	タヌギ節	丸木	OSK3-16		2, 4
3次	杭	杭6群		平安	クロマツ	丸木	OSK3-17		2
3次	杭	杭6群		平安	タマノミズキ類	丸木皮付	OSK3-18		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-19		2
3次	杭	杭6群		平安	クロマツ	丸木	OSK3-20		2
3次	杭	杭6群		平安	アカマツ	丸木	OSK3-21		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-22		2
3次	横木	坑群不明	W10	平安	モミ属	丸木皮付	OSK3-23		2, 4
3次	杭	坑群不明		平安	複雜管束亞属	丸木	OSK3-24		2
3次	杭	坑群不明		平安	複雜管束亞属	丸木	OSK3-25		2
3次	杭	坑群5群		平安	複雜管束亞属	丸木	OSK3-26		2
3次	杭	杭5群	W17	平安	モミ属	丸木	OSK3-27		2, 4
3次	杭	杭5群		平安	モミ属	丸木皮付	OSK3-28		2

調査	製品名	出土地	番号	時代	樹種名	木取り	標本番号	製品備考	文献
3次	杭	杭6群	W12	平安	楓	丸木	OSK3-29		2, 4
3次	杭	杭6群	W14	平安	セミ属	丸木	OSK3-30		2, 4
3次	杭	杭6群	W15	平安	セミ属	丸木	OSK3-31		2, 4
3次	杭	杭6群	W13	平安	セミ属	丸木	OSK3-32		2, 4
3次	杭	杭6群		平安	セミ属	丸木皮付	OSK3-33		2
3次	杭	杭6群		平安	セミ属	丸木	OSK3-34		2
3次	杭	杭6群		平安	セミ属	丸木	OSK3-35		2
3次	柱	柱2	W2	平安	セミ属	丸木	OSK3-36	橋脚遺構?	2, 4
3次	柱	柱4	W5	平安	セミ属	丸木	OSK3-37	橋脚遺構?	2, 4
3次	柱	柱6	W6	平安	アカマツ	丸木	OSK3-38	橋脚遺構?	2, 4
3次	柱	柱1	W1	平安	カヤ	丸木	OSK3-39	橋脚遺構?	2, 4
3次	柱	柱5	W4	平安	アカマツ	丸木	OSK3-40	橋脚遺構?	2, 4
3次	柱	柱3	W3	平安	アカマツ	丸木	OSK3-41	橋脚遺構?	2, 4
3次	杭	杭6群D		平安	イヌシテ節	丸木	OSK3-42		2
3次	杭	杭6群F		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-43		2
3次	杭	杭6群F		平安	松脂管束亞属	丸木	OSK3-44		2
3次	杭	杭6群		平安	アカマツ	半開皮付き	OSK3-45		2
3次	杭	杭6群		平安	アカガシ属	丸木	OSK3-46		2
3次	杭	杭6群		平安	複離管束亞属	丸木皮付き	OSK3-47		2
3次	杭	杭6群		平安	アカマツ	丸木	OSK3-48		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木皮付き	OSK3-49		2
3次	杭	杭6群		平安	エゴノキ属	丸木	OSK3-50		2
3次	杭	杭6群		平安	アカマツ	丸木	OSK3-51		2
3次	杭	杭6群		平安	アカガシ属	丸木	OSK3-52		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-53		2
3次	杭	杭6群		平安	ツブライ	丸木	OSK3-54		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木皮付き	OSK3-55		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-56		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-57		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木皮付き	OSK3-58		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-59		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-60		2
3次	杭	杭6群		平安	シキイ	丸木	OSK3-61		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-62		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-63		2
3次	杭	杭6群		平安	アカマツ	丸木	OSK3-64		2
3次	杭	杭6群		平安	アカマツ	丸木	OSK3-65		2
3次	杭	杭5群		平安	ヤマモモ	丸木	OSK3-66		2
3次	杭	杭5群		平安	アカガシ属	丸木	OSK3-67		2
3次	杭	杭5群		平安	ヒサカキ	丸木皮付き	OSK3-68		2
3次	杭	杭5群		平安	ノグルミ	丸木	OSK3-69		2
3次	杭	杭7群		平安	コズリハ属	丸木	OSK3-70		2
3次	杭	杭7群		平安	ウツギ属	丸木	OSK3-71		2
3次	杭	杭7群		平安	コナラ節	丸木皮付き	OSK3-72		2
3次	杭	杭7群		平安	ツブライ	角材	OSK3-73		2
3次	杭	杭4群		平安	セミ属	丸木	OSK3-74		2
3次	杭	杭4群		平安	クロモジ属	丸木	OSK3-75		2
3次	杭	杭4群		平安	ツブライ	ミカン削	OSK3-76		2
3次	杭	杭2群		平安	ツブライ	ミカン削	OSK3-77		2
3次	杭	杭2群		平安	アカガシ属	丸木皮付き	OSK3-78		2
3次	杭	杭2群		平安	ノグルミ	丸木	OSK3-79		2
3次	杭	杭1群		平安	スギ	板目板	OSK3-80		2
3次	杭	井戸1	W18	平安木	タヌギ節	丸木	OSK3-81		2, 4
3次	排水管	井戸1	W19	平安木	クロマツ	丸木	OSK3-82		2, 4
3次	管	井戸1	W20	平安木	ヒノキ		OSK3-83		2, 4
3次	杭	杭6群		平安	ノグルミ	丸木	OSK3-156		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ節	丸木	OSK3-157		2

調査	製品名	山:遺構	番号	時 代	刷 種 名	木 取 り	檜木番号	製品備考	文 獻
3次	杭	杭6群		平安	クロキシ属	丸木	OSK3-158		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ跡	丸木	OSK3-158		2
3次	杭	杭6群		平安	タヌギ跡	丸木皮付き	OSK3-160		2
5次	曲物底板	井戸6	W13	半木一縫合初	ヒノキ	板日	OSK3-84		2, 6
5次	曲物底板	月戸3	W1	平安	ヒノキ	板日	OSK3-85		2, 6
5次	櫛鶴	月戸3	W6	平安	イヌキ		OSK3-86		2, 6
5次	櫛鶴	井戸3		平安	ヒノキ	斜め	OSK3-87		2
5次	櫛鶴	井戸3		平安	ヒノキ	板日	OSK3-88		2
5次	曲物底板	月戸3	W2	平安	ヒノキ	板日	OSK3-89		2, 6
5次	鍔	井戸5	W1	平安末	カキノキ属	角材	OSK3-90		2, 6
5次	箸	井戸2	W3	平安	スギ		OSK3-91		2, 6
5次	曲物底板	井戸4	W2	平安六	ヒノキ	板日	OSK3-92		2, 6
5次	杭	井戸4	W3	平安末	アカマツ	角材	OSK3-93		2, 6
5次	曲物底板	土塙15	W13	平安大	ヒノキ	板日	OSK3-94		2, 6
5次	曲物木釘	土塙15	W13	平安大	アカマツ		OSK3-95		2, 6
5次	楕	土塙15	W1	平安大	ケヤキ		OSK3-96		2, 6
5次	箸	土塙15		平安大	スギ		OSK3-97		2
5次	箸	土塙15		平安大	スギ		OSK3-98		2
5次	ト歎	土塙15	W2	平安大	スギ	板日	OSK3-99		2, 6
5次	箸	土塙15	W7	平安大	スギ		OSK3-100		2, 6
5次	しゃもじ	土塙15	W19	平安大	スギ		OSK3-101		2, 6
5次	しゃもじ	土塙15	W20	平安大	スギ		OSK3-102		2, 6
5次	曲物底板	土塙15	W12	平安大	ヒノキ	板日	OSK3-103		2, 6
5次	曲物底板	土塙15	W14	平安大	ヒノキ	板日	OSK3-104		2, 6
5次	曲物底板	土塙15	W14	平安大	ヒノキ	板日	OSK3-105		2, 6
5次	箸	土塙15	W18	平安六	スギ		OSK3-106		2, 6
5次	楕	土塙15	W1	平安大	ケヤキ		OSK3-107		2, 6
5次	箸	土塙15	W16	平安大	ヒノキ		OSK3-108		2, 6
5次	楕	土塙15	W1	平安大	ケヤキ		OSK3-109		2, 6
5次	箸	土塙15	W1	平安大	ヒノキ		OSK3-110		2, 6
5次	楕	土塙15	W1	平安大	ケヤキ		OSK3-111		2, 6
5次	箸	土塙15	W9	平安大	スギ		OSK3-112		2, 6
5次	箸	土塙15	W10	平安大	スギ		OSK3-113		2, 6
5次	曲物底板	土塙15	W17	平安大	ヒノキ	板日	OSK3-114		2, 6
5次	曲物底板	土塙15		平安大	ヒノキ	板日	OSK3-115		2
5次	箸	土塙15		平安大	ヒノキ		OSK3-116		2
5次	箸	土塙15		平安大	スギ		OSK3-117		2
5次	箸	土塙15		平安大	スギ		OSK3-118		2
5次	箸	土塙15		平安大	スギ		OSK3-119		2
5次	箸	土塙15		平安大	スギ		OSK3-120		2
5次	箸	二塙15		平安木	ヤナギ属		OSK3-121		2
5次	曲物底板	井戸6		鐵舟	ヒノキ	板日	OSK5-161		2
5次	井戸仲横木	井戸6		鐵舟	スギ	角材	OSK5-176		2
5次	井戸仲	井戸6		鐵舟	スギ	板日	OSK5-177		2
5次	井戸仲	井戸6		鐵舟	スギ	板日	OSK5-178		2
5次	刀子柄	井戸2	11	平安	ケヤキ	板日	OSK5-179		2
5次	刀子柄	井戸2	W1	3	平安	スギ	丸木削抜き	OSK5-180	2
5次	舟材	井戸6		鐵舟	アカマツ		OKUF-251		2
5次	杭	井戸6		鐵舟	ヒズリハ属	丸木	OKUF-252		2
5次	板口板	井戸6		鐵舟	スギ	板口	OKUF-253		2
5次	箸	井戸6		鐵舟	スギ	削材	OKUF-254		2
5次	板	井戸4	W4	三安木	ヒノキ	斜め	OKUF-255		2, 6
5次	板口板	井戸6		鐵舟	セキ属	板口	OKUF-256		2
5次	札	井戸6		鐵舟	ヒノキ	板口	OKUF-257		2
5次	板口板	土塙15		平安大	ヒノキ	板口	OKUF-258	曲物側板	2
5次	板口板	土塙15	W3	平安大	ヒノキ	板口	OKUF-259		2, 6
5次	舟材	土塙15		平安大	スギ		OKUF-260		2

調査	製品名	出土地標	番号	時 代	樹 種	木 取 り	標本番号	製品備考	文 獻
5次	角材	土壤15		平安末	スギ	削材	OKUP-261		2
5次	名	土壤15	W 8	平安末	ヒノキ	削材	OKUP-262		2, 6
5次	著	土壤15	W 8	平安末	ヒノキ	削材	OKUF-263		2, 6
5次	美	土壤15		平安末	スギ	削材	OKUF-264		2
5次	井戸枠	井戸6	W 2	鍵合	スギ	削材	OKUP-265	東側中横木	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 4	鍵合	スギ	削材	OKUF-266	西側下横木	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 3	鍵合	スギ	削材	OKUF-267	南側中横木	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 1	鍵合	スギ	削材	OKUP-268	北側中横木	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 6	鍵合	スギ	削材	OKUF-269	東側下横木	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 8	鍵合	スギ	削材	OKUF-270	西側下横木	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 7	鍵合	スギ	削材	OKUF-271	南側下横木	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 5	鍵合	スギ	削材	OKUF-272	北側下横木	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 10	鍵合	スギ	削材	OKUF-273	東側南北支え	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 9	鍵合	スギ	削材	OKUP-274	東側北支え	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 12	鍵合	スギ	削材	OKUF-275	西側南北支え	2, 6
5次	井戸枠	井戸6	W 11	鍵合	スギ	削材	OKUF-276	西側南北支え	2, 6
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-277	正面横木	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-278	南面上横木	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-279	南面裏横木	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-280	上部横木	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-281	東面下横木	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-282	堅木	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-283	北側板材	2
5次	机状加工木	井戸6		鍵合	ノグリ	削材	OKUF-284		
5次	板目板	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-285		2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-286	底部	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-287	束1	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-288	束2	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-289	束2'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-290	束3	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-291	束3'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-292	束1	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	×	板目	OKUF-293	束1'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-294	束2	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-295	束2'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-296	束3	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-297	束3'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-298	束4	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-299	束0	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-300	南1	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-301	南2	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-302	南2'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-303	南2"	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-304	南3	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-305	南3'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-306	南4	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-307	南4'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-308	北1	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-309	北1'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-310	北2	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-311	北2'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-312	北3	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-313	北3'	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-314	北4	2
5次	井戸枠	井戸6		鍵合	スギ	板目	OKUF-315	北4'	2

1993年12月20日 刊行
1993年12月20日 発行

岡山大学構内遺跡調査研究年報10 1992年度

編集 岡山大学坪倉文化財調査研究センター
岡山市中島中3丁目1番1号
(086)251-7290

印刷 西日本法規出版株式会社
岡山市高柳西町1-23
(086)255 2181(代)